令和7年6月20日

1. 出席議員

1 番	釘 尾	勢津子	9 番	松 田	義 太
2 番	宮 崎	幸 宏	10 番	勝 屋	弘 貞
3 番	笠 継	健 吾	11 番	角 田	一 美
4 番	中 村	日出代	12 番	伊 東	茂
5 番	池 田	廣 志	13 番	福 井	正
6 番	杉 原	元 博	14 番	松 尾	征 子
7 番	樋 口	作 二	15 番	中 村	和 典
8 番	中 村	一 堯	16 番	徳 村	博 紀

2. 欠席議員

な し

3. 本会議に出席した事務局職員

事 務 局 長	白仁田	和 哉
事務局長補佐	中 島	圭 太
議事管理係長	松 本	則 子

4. 地方自治法第121条により出席した者

市	長	松	尾	勝	利
副	市長	鳥	飼	広	敬
教	育	吉	牟田	一	広
政	策	川	原	逸	生
市	民	岩	下	善	孝
部	長	山	崎	公	和
業	部	山	浦	康	則
建	設	嶋	江	克	彰
環	境	中	村	祐	介
部	長	田	中	美	穂
長		村	田	秀	哲
総	務	中	尾	美	佐子
課	長	星	野	晃	希
政	策	江	島	裕	臣
調	整	手	島	秀	康
課	長	堀		正	和
兼	ゼ	山	口	秀	樹
ロ	カ	橋	川	宜	明
ー	ー	江	頭	憲	和
ボ	ン	山	口	徹	也
推	進				
室	長				
廣	報				
企	画				
課	長				
財	政				
課	長				
商	工				
観	光				
課	長				
農	林				
水	産				
課	長				
建	設				
住	宅				
課	長				
建	設				
住	宅				
課	参				
事					
都	市				
計	画				
課	長				
兼	鹿				
島	駅				
前	周				
辺	整				
備	推				
進	室				
長					
環	境				
下	水				
道	課				
長	兼				
ラ	ム				
サ	ー				
ル	条				
約	推				
進	室				
長					
環	境				
下	水				
道	課				
参	事				
教	育				
次	長				
兼	教				
育	総				
務	課				
長					
生	涯				
学	習				
課	長				
兼	中				
央	公				
民	館				
長					

令和7年6月20日（金）議事日程

開議（午前10時）

日程第1 一般質問（通告順による）

鹿島市議会令和7年6月定例会一般質問通告書

順番	議員名	質問要旨
8	7 樋口 作二	1. 地方創生2.0について 2. 鹿島市の目指すニューツーリズムについて (1)新鹿島駅を中心としたスロツーリズムについて (2)鹿島ニューツーリズム推進協議会の活動について (3)鹿島市の豊かな生態系や民俗等をつなげたツーリズムについて (4)近隣市町との連携について
9	2 宮崎 幸宏	1. 肥前鹿島駅周辺整備事業に関する事 (1)本事業の費用対効果について (2)本事業の内容及び計画について 2. 鹿島市の地域農業の将来の在り方と国道207号鹿島バイパスの沿道開発に関する事 (1)地域農業の現状及び課題について (2)農用地の効率的かつ総合的な利用について (3)地域農業の将来の在り方について (4)広域幹線道路の整備を見据えた土地利用（国道207号鹿島バイパスの沿道開発）について
10	5 池田 廣志	1. 第7次総合計画の基本構想「みんなが住みやすく、暮らしやすいまち」の達成状況について (1)広域幹線道路の整備計画と既設道路の安全施設の管理について (2)地域経済の活性化と雇用創出のための取り組み状況について (3)祐徳門前地区まちづくりの推進を阻む、市道の欠損補修について (4)市役所周辺の環境と景観対策について 2. 市政を力強く推進するための取り組みについて (1)県や他市・町の取り組み状況等の情報収集を行う (2)子供たちの生きる力を伸ばすためのスポーツ等の振興策は (3)市が取り組んでいる情報の発信力の強化策について

午前10時 開議

○議長（徳村博紀君）

皆さんおはようございます。現在の出席議員は16名であります。定足数に達しております

ので、ただいまから本日の会議を開きます。

日程第1 一般質問

○議長（徳村博紀君）

本日の日程は、お手元の議事日程どおり、昨日に引き続き一般質問を行います。

通告順により順次質問を許します。7番樋口作二議員。

○7番（樋口作二君）

皆さんおはようございます。7番議員、樋口作二でございます。

現在の鹿島市議会は、何かと混乱の中にあるように市民の方に思われている状況にあるようですが、そうではない。前向きに市勢振興のために全議員で尽力、活動していますとの思いを込めて、通告に従い一般質問をいたします。

今回の質問は、ニューツーリズムを通じた地方創生についてです。

鳥取県出身の石破茂総理は、従来から指摘していた地方こそ成長の主役という発想に基づき、地方創生2.0という看板政策を打ち出しました。地方創生元年を宣言したのは第2次安倍内閣の2015年、政府は、まち・ひと・しごと創生法の制定、政府関係機関の地方移転や地方創生の交付金などにより全国各地で地方創生の取組が行われました。

鹿島市でもまち・ひと・しごと創生総合戦略をつくり、様々な施策で鹿島市の盛り上がりをつくり出しました。私たちの鹿島市議会も地方創生特別議員会をつくり、各地の優れた取組を学び、市政に生かしてきました。しかし、コロナ禍もあり、人口減少や東京圏への一極集中の流れを変えるまでには至りませんでした。

そこで、この地方創生2.0に期待するわけですが、この看板政策の中身と、その中でも特徴的なふるさと住民登録制度とはどんなものか、まずお尋ねいたします。

2点目は、鹿島市の目指すニューツーリズムについてです。

ニューツーリズムが求められる背景には、消費者の価値観がモノ消費からコト消費に変わってきていることがあると言われてしています。商品に満足するだけでなく、何かを経験することによって得られるものに人々の目は向いてきていると考えられます。

ニューツーリズムには様々なタイプがありますが、主なものに産業観光、エコツーリズム、グリーンツーリズムなどが挙げられます。産業観光は地域特有の産業にまつわるもので、既に大成功を収められている酒蔵ツーリズムはその代表ではないでしょうか。エコツーリズムは、自然環境の保全や、それに伴う教育の場としての活用などが挙げられます。グリーンツーリズムは、緑豊かな農村に宿泊して、農業など、その土地の自然や文化を体験する滞在型の活動です。いずれもSDGs未来都市の鹿島市にふさわしいツーリズムではないでしょうか。

日本中の様々な方に鹿島市に関わってもらうには、まず、鹿島市を訪れてもらうことが最前提だと思います。鹿島市の人、自然と触れ合うニューツーリズムでの交流から、教育長も

申されていましたが、鹿島愛へつながり、関係人口構築へと進めるのではないのでしょうか。

鹿島市でもかねてより様々なニューツーリズムに取り組んでおられる団体等がありますが、このたび新肥前鹿島駅の建設に合わせ宿泊施設を造り、スロートーリズムの展開をうたわれております。まだ何年か先の話になると思いますが、このスロートーリズムとはどのような形で、どこを訪ねられるように計画されているのか、総括質問としてお尋ねいたします。

総括質問はここまでですが、現在実施されている鹿島市ニューツーリズム推進協議会に属しておられる団体や個人が行われているツーリズムへの質問、また、鹿島市のまだ展開されていない財産を生かしたニューツーリズムについて、さらには、他自治体との連携については一問一答での答弁をお願いいたします。

以上です。

○議長（徳村博紀君）

執行部の答弁を求めます。中村政策調整課長。

○政策調整課長（中村祐介君）

私のほうからは地方創生2.0の概要と、それから、先ほど紹介がありましたふるさと住民登録制度につきまして御説明をいたします。

まず、地方創生2.0の概要につきまして御説明したいと思います。

地方創生2.0とは、単なる地方の活性化策ではなく、日本の活力を取り戻す経済政策でございます。また、多様性の時代の住民の多様な幸せを実現するために、地方それぞれのよさや楽しさを発見していく社会政策でもあるということと言われております。次の10年を見据えた地方創生2.0が動き出すことで、国の在り方、文化、教育、社会を変革する大きな流れをつくり出すということが基本的な考え方になります。当面は生産年齢人口が減少するという事態を正面から受け止めた上で、人口規模が縮小しても経済成長し、社会を機能させる適応策を講じていくとされております。そのために、稼ぐ地域をつくるとともに、安心して働けるようにする。2つ目に、地方とのつながりを築き、地方への新しい人の流れをつくる。それから、人が集う、安心して暮らすことができる魅力的な地域をつくる、これらを進めていくために第2世代交付金を創設するなど、地方公共団体の自主性と創意工夫に基づき、地域の多様な参画を通じた地域独自の取組を支援していくとされております。

続きまして、ふるさと住民登録制度につきまして御説明をいたします。

国は、先ほど御説明をいたしました地方創生2.0の目玉政策といたしまして、関係人口を可視化するふるさと住民登録制度の創設を打ち出しました。仕事や趣味などで継続的に居住地以外の地域に関わる関係人口を増やすため、自治体がふるさと住民として登録する制度でございます。

具体的には、スマートフォンなどから利用できる専用アプリを通じて好きな市町村を選び、ふるさと住民として登録すれば、その地域内の様々なサービスを住民と同様に受けられるこ

となどが想定されております。全国の先行した取組事例も示されており、特産品の購入やふるさと納税によるファンづくりをはじめ、県外の企業の社員が自治体と契約いたしまして業務サポートを行う取組、あるいは観光リピーターとして宿の手伝いをするなど、宿泊料が免除になる取組、また、テレワークを行いながら県内に滞在すれば費用を補助するなど、登録すれば特典が受けられる全国の様々な先進事例、先行事例が国から示されております。国は10年で1,000万人の登録を掲げておりまして、東京圏から地方へ移転する、転入する若者の比率を倍増させるという目標なども掲げられておられます。

以上で私からの説明は終わります。

○議長（徳村博紀君）

堀都市計画課長。

○都市計画課長（堀 正和君）

私のほうからは、議員からありましたスロートーリズムとは、そして、こういったところを回るようなツーリズムになるのかということについてお答えをさせていただきます。

開会日の演告にございましたように、本年夏頃から肥前鹿島駅周辺整備工事が始まりまして、皆様の目に見える形で事業がスタートすることになります。エリア全ての工事完了は令和11年度予定をしておりますけれども、今年度、国に申請しておりました補助金も採択を受けまして、現在、県と共に順調に調整を進めているところでございます。

駅は、鹿島の地へ降り立って最初に目にする風景でありまして、まちの玄関口であり、まちの顔となります。肥前鹿島駅の目指す姿は、スロートーリズムの玄関口であり、暮らしの玄関口であります。県としても県南西部地域の交通、観光の拠点として肥前鹿島駅を整備する方針で、鹿島、太良地域を一つの圏域としてプロデュースされており、肥前鹿島駅は広域観光のコンシェルジュとしての機能を持つこととなります。

肥前鹿島駅が目指すスロートーリズムとは、従来型のツアーなどの効率とかスピード優先、そういったものではございませんで、質を重視する個人旅行のスタイルで、予定を詰め込み過ぎず、自分のペースで旅ができる自由な旅行のスタイルということになります。議員がおっしゃいました、消費者のニーズがモノ消費からコト消費に移っているというようなニーズというところになります。

鹿島市には干潟体験や棚じぶ体験、それから、ミカン狩りとか伝承芸能、浜宿においての地酒の飲み比べですとか、そういったスロートーリズムの土台となる魅力的な素材がございます。祐徳神社の観光地、こういった従来からの観光地をただ見るだけの観光ということではなく、その中にある鹿島の人たちが日常につくり上げてきたもの、そういった日常に溶け込んだ本物の魅力を体験していただく旅を提案することで、地域の人や文化に触れ合い、鹿島にまた来たくなる、もっと知りたくなる、そういった好循環を生むようなスロートーリズムにつなげてまいりたいと考えています。

以上です。

○議長（徳村博紀君）

7番樋口作二議員。

○7番（樋口作二君）

御答弁ありがとうございました。

それではまず、地方創生2.0、ふるさと住民登録制度について、もう少し詳しく尋ねてみたいと思います。

一昨日は松尾征子議員、昨日は伊東議員の中でも、関係人口をつくるのが鹿島市の進展には欠かせない、そういうふうな御提案だったというふうに存じています。

そうした中で、このふるさと住民登録制度というのが本当にどこの自治体もするので、どういった形になるのかなというのがちょっと見えてこないというところもあるんですけども、限られたパイではあると思うんですが、鹿島市の魅力、先ほどのスローツーリズムも関係してくるのかなというふうに思いますけれども、そういったいろんな鹿島市の魅力を持っていないと登録にはつながらないということになりますよね。

地方創生2.0にはいろいろあると思いますけれども、この住民登録制度をより鹿島市に有利なように提案するというような考え、施策というか、そういうことはどういうふうに考えておられるでしょうか。

○議長（徳村博紀君）

中村政策調整課長。

○政策調整課長（中村祐介君）

お答えいたします。

ふるさと住民登録制度につきましては、まだ詳細な制度設計というのが来ておりません。この制度が始まるということで仮定してお話をしていきたいと思っておりますけれども、総体的に言えば有効に活用していきたいということなんですが、例えば、鹿島市においても以前より交流人口とか関係人口の増加のための様々な取組をしてきました。先ほどありました鹿島のファンづくりに非常に貢献している酒蔵ツーリズムなどはその代表例であるんじゃないかなと思っております。また、ガタリンピックとか鹿島おどりなどのイベントも、市外から何度も来られているリピーターの方々がたくさんおられます。こういった方々に呼びかけて、このふるさと住民登録制度にも始まった際には十分に活用できるのではないかというふうに考えております。

これまで鹿島市が取り組んできた、先ほど申したイベントとか、そういった観光施設などの魅力を生かして、また、市にゆかりのある方々の御縁もごございます。仕事で鹿島市で働いていた方とか鹿島出身の方はもとより、鹿島高校の卒業生だとか、そういった方々の縁を生かして、今後、市が進めていく移住・定住施策とも絡めながら、しっかりと活用していきたい

いというふうに考えております。

以上です。

○議長（徳村博紀君）

7 番樋口作二議員。

○7 番（樋口作二君）

ありがとうございます。「先んずれば人を制す」ということもありますし、他自治体に先駆けていろんなアイデアを持っていて、これに取り組んでいただいて、より鹿島市が進展することを期待しています。ありがとうございます。

それでは、次の新肥前鹿島駅についてですけれども、いろいろ議員の中でも反対意見とかあった中で、私が一番賛成だなと思ったのは、鹿島・太良地区をまとめてスローツーリズムといいますか、進展していこうという、その考えが非常に新鮮だったことを覚えております。

そこで、今申されましたツーリズムも、最初は単なる祐徳稲荷神社とか、今まで有名どころだけをゆっくり回るのかなというふうな感じがしていましたけれども、今、課長が申されたのは、質を重視するとか、日常に溶け込んだ私たちの暮らし、そこに魅力を見つけてもらってスローツーリズムと呼んで提案するというふうな形を言われました。

実はその後のことは、こういったことを私も提案しようと思っていたんですけれども、これは当然まだ先の段階でございますよね。これもふるさと住民登録制度と一緒に、いろんなことを先んじて計画していれば、小さな取組でもいいから先にやっていたらツーリズムにもつながるのかなと思うんですけど、肥前鹿島駅を中心としたスローツーリズムの、何というんですかね、誰が計画して募集したり、募集の団体が都市計画課じゃないだろうなとか思うんですけど、その辺はどういうふうにお考えなんでしょうか。

○議長（徳村博紀君）

堀都市計画課長。

○都市計画課長（堀 正和君）

どういった形でスローツーリズムを推進していくかといったことかなと思っておりますが、1つは、今まで皆さんに知られていなかったようなものを発掘するということであれば、肥前鹿島駅を玄関口として、そこにコンシェルジュという方を置いて、日常的に何祭りがありますよというわけではなくて、今、旬の鹿島の魅力を伝えるような役割というのが必要になるのかなというふうに思います。

例えば、少し前ですけれども、祐徳稲荷神社の蛸は今きれいですよとか、あるいはヒガンバナと棚田、ここら辺に行かれたら見られますよとか、あるいは今だったらアジサイ、そして帰られるときには、例えば、9月になれば村々での伝承芸能を見られますよとか、そういった一つ一つの御案内をしていく、そういったことが我々の日常にマッチしたスローツーリズムじゃないのかなというふうに思っております。御質問の我々だけ、例えば、行政だ

けでやってもというところかなというお尋ねでしたけれども、そこはやっぱり議員のおっしゃるとおりであるかなと思います。

我々としても昨年度までは、今年度事業着手を一つの目標ということで進めてまいりました。ただ、これからはハード的な事業を進めるだけではなくて、全庁挙げてまちづくりの起爆剤になるような取組にしていく必要があると考えております。

1つは、庁内ですけれども、情報の共有の強化を図っております。これは全職員へ駅とか町なかの情報発信を行って、このプロジェクトを理解してもらって、各課それぞれの業務と連携を進めてもらいたいと。そして、職員一人一人が身近な人に、今度の駅整備はこういうことだよということで伝えてもらいたいということを少しずつ進めております。また、広報企画課、商工観光課については、プロジェクトを進める上で縦割りができない不可分のところがございますので、庁内推進チームを組織して情報の共有を図っております。

そして2つ目ですけれども、地域のプレーヤーの方々をつながりをつくるということが必要ではないかなと思っています。スローツーリズムですので、ゆっくり滞在をしてもらう。となりますと、宿泊との連携が不可欠になってまいります。あとは体験型観光、飲食、こういったものを含めた磨き上げ、あるいはスローツーリズムの仕掛けづくり、そういったものも必要と考えております。

そして最後にですけれども、我々の地域だけが盛り上がりも仕方がございませんので、鹿島というところがスローツーリズムのまちづくりをやっているよということをブランディングして国内外に発信するということが今後必要だと考えております。そういった仕掛けをこれから進めていきたいと思っております。

以上です。

○議長（徳村博紀君）

7番樋口作二議員。

○7番（樋口作二君）

ありがとうございました。またこれから提案することともつながっていますので、肥前鹿島駅でのお話はこれぐらいにして、ぜひ期待していますので、いろいろ庁内連携して盛り上げてくださるようによろしくお願いします。

2点目ですけれども、実はニューツーリズムについては、鹿島市ニューツーリズム推進協議会というのがあって早くから活動されているんですけれども、この活動とか、そういったことについて商工観光課のほうで若干説明していただければよろしいでしょうか。

○議長（徳村博紀君）

中尾商工観光課長。

○商工観光課長（中尾美佐子君）

私のほうからは鹿島市ニューツーリズム推進協議会について御説明させていただきます。

鹿島市ニューツーリズム推進協議会は、多良岳山系や有明海という豊かな自然環境に恵まれた素材を生かし、市内全域でニューツーリズムを推進する体制を整え、幅広い観光ニーズの多様化に対応したプログラムの充実と、農泊により交流人口増に寄与することを目的に、平成25年2月に設立されました。現在、11の団体と個人で8名の方が会員となっており、ニューツーリズムの情報の共有と発信などを主な事業としております。

令和5年度には農林水産省の農山漁村振興交付金を活用して、台湾、シンガポール、タイのインフルエンサー、またはメディアを招聘したモニターツアーを開催いたしました。インフルエンサーにSNSで情報発信していただき、体験メニューの知名度向上につながることでできたものと感じております。

また、現在会員の皆様は地元の特産品や地域の日常を体験していただけるような商品の販売など、活動の場を広げていらっしゃいます。

以上でございます。

○議長（徳村博紀君）

7番樋口作二議員。

○7番（樋口作二君）

ありがとうございました。

それでは、個々の団体について少し連携しながら、やっぱりそれぞれ団体があらわれて、自分たちだけではなかなか盛り上がっていかないというふうな情報もちよっと聞いておりますので、見ていただきたいと思います。

〔映像モニターにより質問〕

これは副市長も訪ねられたことがある七開にございます、これはあんちゃん家と書いて「あんちゃんち」というふうな読み方をされております。自分で無農薬の野菜とかを作られて、その野菜等を食卓に上らせて、宿泊もできるし、私が行ったときなんか、お昼だけを食べに来ておられる長崎県の方がおられましたけれども、そういった感じで取り組まれて、主にバーベキューを中心に取り組まれているところなんです。やっぱりいろいろ工夫はされておりますけれども、1つの活動ではなかなかつながっていかない。何かほかの取組と一緒にできないかなというふうなことを非常に思っておられまして、そういったところのアドバイスとか、どういったところとつなげていけばいいのかというふうな、そういった仕組みをつくっていく必要が私はあるのかなと思っております、このニューツーリズム同士のつながりというか、そういった別な取組ですね。例えば、さっき言われましたけれども、旬に合わせてアジサイとか、そういうふうなことをコーディネートするような組織が鹿島市の中に必要なんじゃないかなとは思っているところでございますので、頑張っておられますけれども、ちょっと行き詰まりも感じておられる「あんちゃん家」です。

次に行きます。

ここは同じく、みんなの家といたしますけれども、飯田山のほうにおられて、結構早くからやっておられます。ここの特徴は何といっても五右衛門風呂じゃないかなと思うんですけども、昔ながらの農家といたしますか——をつくっておられまして、そういった古風なところにひかれて、5月は忙しかったというふうに言われておりました。ここは結構外国人の方も来られるんですよ。中国の方の特徴とか台湾の方の特徴とかよく御存じで、ちょっとここで言いにくいんですけども、そういうふうなこともあって非常に頑張っておられるところで、ここも自分の家の周りでミカンを作ったり、いろいろしておられて、特にミカン狩りというのは非常に人気だそうですね。物すごく人気でありまして、ミカン狩りだけのツアーをやっている団体もありますけど、なかなかミカンも人が入ると荒らされますので、結構嫌がられますよね。そういったところの契約とかをどことするんだということも、鹿島市として財産として持つておく必要があるのかなというふうに思います。

それから、何かここに家がありますけど、一番上ですね、これはマスカットを植えておられるんですよ。マスカットはぎゃんして作つとばいというて教えてもらいましたけれども、マスカットのブドウ狩りはまた人気ですね。これもまた一般のブドウ狩りに来られる方に荒らされるのが嫌というふうな農家さんが非常に多いと思いますけれども、そういったブドウ狩りならここですよというのも鹿島市の財産といたしますか、行けるようなところを確実に持つておくということは、この新しいニューツーリズムにつながるのかなというふうに思います。そういったことも含めて、このニューツーリズム団体等のつながりをつくるようなことをぜひやっていただきたいんですけども、その辺また後でまとめて市長のほうにはお尋ねしようかなと思います。

それでは、一応ニューツーリズムのほうはこれで終わりました、今までニューツーリズム等で取り扱っておられないツーリズムについてちょっと紹介をしながら、皆さんと一緒に楽しみたいと思いますので、どうぞよろしくお願いします。

この写真は、一番上にありますけれども、経ヶ岳です。経ヶ岳は、実は鹿島市ですよ。鹿島市ですけど、佐賀県で一番高い山ですよ。結構御存じないといいますが、佐賀市の辺りからも御存じない方もおられるということで、佐賀では天山が一番高かとばいというふうなことを思っている方も多いということをお聞きします。

この経ヶ岳にですね、下にありますがけれども、実は鹿島市でも有名な方ですけども、登頂記念の御朱印ということで、なくなるとすぐ補充に行かれて、現在850枚、番号をつけているから間違いはないということでしたけれども、経ヶ岳に登ったらこの御朱印を登頂記念として持つていってくださいというボランティアをやられています。皆さんがよく知っている方ですけども。それで、こういった山に関するにぎわいといいますが、人気といいますが、山があるというふうな言葉もありますけれども、非常にこれも人気ですので、鹿島市の財産として、ぜひおいでいただきたいということ。

それから、ちょっと尋ねてみたいんですけど、経ヶ岳に登ったことがある方、こっそりと。何人かおられますね。ありがとうございます。

そういうふうなことで、鹿島市、最高峰ですから、鹿島市民の方はぜひ一度登られて、この御朱印でもいただいて楽しんでいただきたいと思いますけれども。

実はこの経ヶ岳ツアーで、経ヶ岳の山頂、この辺だと思いますけど、マンサクという花が咲きます。これは主に北のほうにある木ですので、なかなかこちらでは見かけないんですけど、マンサクを見に行こうというツアーをされて、自分で募集されて、特に鹿島市じゃなくて、佐賀市方面を中心に30名以上の方が来られたというふうなことです。

そういうふうなことで、この取組が優れているなど思うのは、単なる登山ではなくて、あそこに館がありますね、平谷ですね、あそこに宿泊したり、それから、いろいろな野鳥の話とか動物の話とか、そういうことも取り合わせたツアーを組んでおられます。先ほどの堀課長の話じゃないですけども、こういうふうな鹿島市の自然を生かした、ある意味ちょっと勉強になるような、そういうふうな取組と併せたツアーといいますか、そういうことを実際にやっておられますので、ぜひ参考にされて、いろんな方にそういうふうなことを財産としてつくっていただければというふうに思います。

すみません、ちょっと我が一人でしゃべりよるごたるですけど。

次に行きたいと思います。経ヶ岳山頂です。

ちょっと分かりにくいですけど、この辺にたくさんいる川の中の生き物が分かるでしょうか。（「メダカ」と呼ぶ者あり）メダカですね。これはちょっと聞いてみたいと思うんですけども、実は野生のメダカが絶滅危惧種と言われてますよね。鹿島市でもかなり減りました。どこにでもいるというわけではありませんけれども、どこかにはまだいますけれども、鹿島市で何か所ぐらいのメダカの自然な生息地があるか調べられているのでしょうか。どなたかに尋ねます。調べていなかったら調べていないで結構でございます。

○議長（徳村博紀君）

山浦建設環境部長。

○建設環境部長（山浦康則君）

お答えします。

メダカがどこにすんでいるかという調査はしてありませんけれども、ラムサール条約推進室のほうで肥前鹿島里山未来拠点協議会というのがございまして、そこで活動をしていらっしゃるところが、このめだかの学校だと思えます。そういう活動を広げていきたいということで、現在協議会の中でいろんなお話をさせていただいているところでございます。

以上でございます。

○議長（徳村博紀君）

7番樋口作二議員。

○7番（樋口作二君）

いろいろあって、明らかにここにいますというのはここでは言えないんですけども、何か所かいるところは私も知っていますけれども、ぜひ鹿島市の中で、ここにはメダカがいるよという記録を残しておいたら、いや、いつ滅ぶかが分からない。アゲマキがそうでしょう。幾らでもおったとばいというて、誰も分からんですよね。でも、本当にいなくなりました。だから、いろんな生き物が絶滅しています。そういったことも含めて、このメダカ等がいる環境というのは非常に優れた環境であるというふうなことで、そういったところの記録とか、ぜひお願いをしたいと思います。

今、環境保全じゃなくて、ネイチャーポジティブと、これを増やそうというふうな世界的な考えですよ。今の自然の環境を保全するだけじゃなくて、増やさんぎいかんと、元の環境に戻らんといかんというふうな考えでやられています。

さらに、このメダカはすごい人気ですよ。結構飼うとんしゃあ人は多かですよ。いろんなメダカを飼っておられますけれども、やっぱりこういう自然にいるメダカという環境も大切にしながらいければなと思います。

あと二、三、よろしくをお願いします。

〔映像モニターにより質問〕

これは何でしょう。学校の授業のごたるですね。すみません。

これは沖ノ島、これほどこの所有かというのはなかなか厳しいところがあるんですけども、一番身近な有明海の中にある唯一の島ですね。船で行くと20分ぐらいで行けるというところがございます。ここに行ったことがある人——ありがとうございます。あるとは知っているながら、なかなか行けるようなところじゃないですけども、こういうふうなところが鹿島市にあるんだということ。

もう一つ、実は沖ノ島は、市長は御存じだと思いますけれども、船に乗られる方、漁民の方にとっては非常に貴重な場所なんですよ。海の安全を守ってくれるといいますか、そういうふうな信仰の島でもありますよね。

ここにおられるのがお島さんの銅像といいますか、こういうふうないろんな貝類がついたりとか、1年たつとなかなか厳しいもので、これを年1回、七浦地区振興会ではきれいにお化粧しますけれども、やっぱり1年たつと色がなくなってきましたね。振興会を挙げて沖ノ島清掃という取組もやっておりまして、そういうふうな取組だけではなく、ここは面白いんですよ。釣りが好きな人、議長をはじめ、何人かおられると思いますけれども、ここでは大型のスズキがよく釣れるところでも有名ですし、ぜひ有明海の中で沖ノ島も活用できないかなというふうに思います。

あとは有明海の魅力ということで次に移りますが、これはお島さんが化粧しているところですよ。

冬場になると、大好きな皆さんがおられますけれども、これは本当に七浦海岸ではよく見られる風景です。これはカキですけど、これはシカメガキ、本当は何か遺伝子検査をしないと分からないというふうなことも言われていますけど、シカメガキの集団です。何か小さくて、ぼこっとしていてですね。以前、鹿島市が進展するにはやっぱり食が非常に大切なので、クチゾコを鹿島のソウルフードじゃないですけど、いけないかなという提案をしたことがあるんですけど、今はほとんどクチゾコは見かけないでしょう。物すごく減ったですよ。何とか今生きているのがこのカキ類で、カキ類も養殖とかなんとかでは非常に大きなカキですけども、その辺の海岸についている小さなカキですけど、実はこれがおいしいんですよ。

以前も話したことがあるんですけども、世界中で世界のカキファンがよだれを垂らすといますか、垂涎的となっているのがクマモト・オイスターという、これもシカメガキを基にして開発された品種ですけども、そういうクマモト・オイスターの母体となる、基となるカキが物すごくあるわけです。これは何とか生かされんすかねというのを常々思っていて、私はこっそり取りに行きますけれども、本当に今も減って、市民の方全部に分けてやるような量はないんじゃないかなと思いますよね。道の駅なんかでは若干売っているところもございまして、このシカメガキあたりをツアーの一角に加えたりしたらすごくいいんじゃないかなと思ったりします。

それから、今度驚いたのは、次の写真です。鹿島側沖にこういうふうなカキ礁が立ったということで、干潟で有名な方から写真提供していただきましたけれども、これは実はスミノエガキ、スミノエガキは大きなカキですよ。このカキ礁が、今年は初めてばいというように立ったということですね。非常に有明海は不思議な海だなと思いました。だんだん落ちていくだけかと思えば、あるときにはこういうふうなすごい大量の貴重な、これを売ったら幾らになるんだろとか、それは別にして、恥ずかしい発想ですけども、こういうふうな自然の不思議というのが有明海にもあって、ぜひこういうこともスローツーリズムの中に加えていただければというふうなことです。

あと1点あります。これもみんなが大好きなものです。誰でも分かると思いますけれども、ウナギですけども、有明海には川に上る魚、里海にだけいるウナギとか、まだいろんなウナギの生態があるみたいで、絶滅危惧種と言われていても必ず入ってきていますね。確かに数は減ったと思うんですけども、また、これをさばくのが難しいということもあってですけども、天然のウナギだったら、こんくらいだったら5千円ぐらいすっばいとか言われたりしておられましたけれども、このウナギというふうなものの財産、あるいはツアーといますか、多分4月、5月頃、例えば、ウナギ釣りツアーとかしても結構集まるんじゃないかとか、もちろん御承知のとおり、ウナギ塚とかやっていますけど、この頃なかなか大きなのは入らなくなったんですけども、そういった体験ツアーの中で、こういう有明海の資源を生かしたようなツアーもぜひ考えていただければと思って提案しているところです。

最後のほうに行きます。最後じゃないですけど、4番目に、近隣市町との連携ということでお尋ねをいたします。

まず、太良町との連携は、先ほどのスローツーリズムでも言われましたけど、ちょっと難しいのは、チームかしたらとKATAラボという似たような名前があって、その辺のところが連携していろんな取組をされているんですけども、チームかしたらとKATAラボの違いとか、それぞれ取り組んでおられる内容とかを教えてくださいませんか。

○議長（徳村博紀君）

中村政策調整課長。

○政策調整課長（中村祐介君）

お答えいたします。

鹿島市、太良町ですね、いろんな連携の取組が既に始まっております。先ほど御紹介したような多良岳とか、有明海の豊かな自然環境に育まれた食材とか観光資源などが数多くありまして、それを生かしているいろんな取組をしているんですけども、まず、かしたら協議会と言われる、正式名称は鹿島・太良広域連携SDGs推進協議会といいますけれども、そのかしたら協議会につきましては、このようにいろんな素材を活用いたしまして、これまで酒蔵列車とかビール列車、それから、スイーツ列車とかのいろんなツアーを実施しております。今、参加者もかなり多く参加をさせていただいて、鹿島、太良のファンづくりにこれまで取り組んでまいりました。特に各停車駅では、肥前七浦駅だとか多良駅ですね、地元の方々が一緒になって地元特産の品々を使ったおもてなしとかをしっかりとさせていただいて、参加者からは大変喜ばれております。

また、KATAラボにつきましては、鹿島、太良のいろんな素材を生かして、素材磨きというか、例えば、鹿島でいえばノリを使った食材のグルメ開発だとか、アスパラ収穫とか、その後にピザを振る舞うような、そういうツアーをやったりとか、あと太良町でいえば、海中鳥居のクルージングをしたりとか、ウインナーづくりとか、そういったいろんな活動をされて、まだ有名ではない、そういう素材にもスポットを当てて、地元の方々と一緒になって素材の磨き上げをされております。

そういったことで、今後も鹿島、太良のいろんないいところを、魅力を発信していく上では、先ほどあったようないろんな素材の魅力、ある素材を掘り起こすということも非常に重要なことではないかなと考えております。

以上です。

○議長（徳村博紀君）

7番樋口作二議員。

○7番（樋口作二君）

太良町も非常に自然に恵まれて、連携するにふさわしいといいますか、非常に魅力のある

ところでございます。チームKATAラボですね、連携しているいろんなことをやっていただきたいというふうに思います。

あと、多良岳を愛する会という、非常に活動をされているグループがありまして、もうすぐ多分オオキツネノカミソリとか咲くんですよ。キツネノカミソリというのが有名なんですよね。結構知る人ぞ知るといいますか、そういうツアーとかももちろん組まれたら非常に人気が出るので、マンサクよりももっと目立つ花でございますので、出るんじゃないかなと言ったり思ったりしています。ぜひ太良町の資源と連携して広めていただければと思います。よろしく申し上げます。

最後にですけれども、島原半島といいますか、結局、有明海がつながっている。今、沿岸道路とかなんとか、あるいは4県が連携して盛り上げていこうと機運が高まっていると。そういったことも今まで一般質問の中で伺いました。まず、身近な太良町まで、太良町から先の島原半島沿岸地域との連携、この辺りはもっと進めやすいんじゃないかなと思うんですけれども、どういったことを考えておられるのか、教えてください。

○議長（徳村博紀君）

中村政策調整課長。

○政策調整課長（中村祐介君）

お答えいたします。

島原半島ということなんですけれども、島原半島の有明海沿岸地域につきましては、鍋島家などの歴史的な深いつながりがある一方で、同じ有明海沿岸でも環境が異なって、様々な景色、それから、観光の素材になるコンテンツが数多くございます。それぞれの魅力を生かして地域の魅力につなげようと、昨年度、大牟田市のほうで有明海沿岸地域振興会議が発足をいたしました。この会議は、熊本、福岡、佐賀、長崎の4つの県にまたがった有明海沿岸地域の市町を中心に構成された会議で、19市と7町の合計26市町が参加をしておりますが、行政と経済界が共に手を携え、広域連携による地域活性化を目指した組織でございます。

また、この会議では、人流、物流の活性化をはじめ、海の幸、山の幸などの特産品を活用した新商品開発、それから、有明海一周などの観光ルートや自転車によるツーリズムの開発、それから、インバウンド、修学旅行の誘致に向けた一体的な取組を目指しております。今年度は、今後の方向性を導き出すための基礎調査を行い、令和8年度にはアクションプランが策定される予定となっております。

特に、観光の分野では連携した取組が重要となっておりますので、鹿島市としても環有明観光連合との連携も含めて、今後、積極的に他の自治体や関係機関と連携し、市の活性化につなげていきたいというふうに考えております。

以上です。

○議長（徳村博紀君）

7番樋口作二議員。

○7番（樋口作二君）

ありがとうございました。有明海を語るときには、やっぱり諫早湾がよく問題になります。いろいろな方面から有明海を知って、そういった問題を考えるというふうなことも必要じゃないかなと思います。

実は、亡くなられましたけど、井手洋子さんという方が、これは門前の方ですけども、ずっと有明海の取材をして回っておられました。私たちの鹿島市でもノリの不作が大変問題になっていますけれども、向こうのほうのノリを見たら、まだノリの色がついていない色落ちというのが問題になっていますよ。ノリがついていないですね。もっとひどい状態。ノリヒビにノリがない、つかない、そのような状況、海況の中でもありまして、そういうふうないろんな漁民同士ではないですけども、私たちも向こうのほうの環境というのを知っておかにかいかなかなというふうなことがあって、それで、よりいろんなことをしながら連携すると、問題点も併せて連携をするというふうな取組が必要かなというふうに思っております。最後の写真です。

〔映像モニターにより質問〕

有明海でいいますと、ずっと潮流が左回りでというふうなことで、実は鹿島市の中でも浜地区まではほとんどが泥干潟といいますか、七浦ぐらいからちょっと先、ずっと向こうは何というんですかね、石わらがあって、そういうふうな状況が広がっています。そういったところにはこういった漁法が昔からあって、実は世界中にあるので、これはちょっと難しい漢字ですけど、石干見、この辺ではもっと小さいような感じ、石アバという表現は聞かれたことがあるかなと思いますけれども、要するに、潮の満ち引きを利用して、この辺にたまった満ち潮のときにやってきた魚たちを引き潮で取るというのが基本的かなと思いますけれども、そういうふうな漁が世界各地にあるみたいです。一回回ったんですけども、もちろん七浦小学校の沖にも形が若干残っていますけれども、こういうふうなところが島原半島はずっと広がっておりまして、ほとんど雲仙市になるのかなと思いますけれどもね。

そういうふうな漁労文化といいますか、こういった同じような暮らしはやっぱりされていたんですよ。そういうことにも目を向けるような何かツアーでも取り組んで、連携して取り組むというんですかね、お互いに向こうの方もこっちに来られて、こっちも向こうに行ったりとか、そういうふうなことも考えられるのではないかなというふうに思います。

ということで、いろいろ主に提案型の一般質問をいたしましたけれども、まとめて市長、どのようにお考えなのか、海の男の市長、どうぞよろしくお願いします。

○議長（徳村博紀君）

松尾市長。

○市長（松尾勝利君）

関係人口を今から増やすということとか、ニューツーリズム、スローツーリズムですね、こういうことを今から取り組んでいけばいいというふうなことで、樋口議員からは、鹿島市の多良岳、あるいは有明海、メダカとか、いろんなことで鹿島の魅力を今いっぱい話していただきました。

このスローツーリズム、ニューツーリズムというのは、今までの観光と違って、ゆっくり旅をするということで、今御紹介いただいたように、そういう素材が鹿島にはいっぱいあるんですね。だから、逆に言えば鹿島は今からチャンスだというふうに思います。その起点となるところが肥前鹿島駅で、そこからいろんな夢、魅力を広げていきたいと思いますというのが今からの取組になってきます。

今連携ということで話をされました。実はせんだって太良のほうに呼ばれました。何でかという、太良は台湾と交流があります。台湾にも同じ漢字で、ちょっと向こうの呼び方は知らないんですけど、「多良駅」と書かれるところがあるんです。そこ今交流を続けておられて、せんだって、そこから9名の方が太良のほうに訪問されました。お互いの交流をやっているんで、ぜひ鹿島の私と嬉野の市長に来て一緒に話をしてくれんですかということがあって、こういうことも言えばお互いの連携かなというふうに思っているところです。

有明海の魅力というのを知らせる、鹿島だけじゃなくて、今おっしゃったように、太良には太良の魅力がありますし、島原半島に行けば、さっきのようなこういうふうな漁法があったりとかあります。

それで、あともう一つは島原鉄道でありますね。あそこが、実は島原の市長さんが時々鹿島に来るよと言われます。何しに来つとですかと言ったら、いや、温泉に入りに来ると言いんしゃあわけですよ。何でですかと。ちょうど距離的によかて。日帰りでちょっとゆっくりしたいときに鹿島に来ますと。そういうふうに向こうのほうも鹿島とかやっぱりいいなという思いでいらっしやいます。

島原鉄道も駅が一番海に近い駅ということでありますよね。ああいうところで、自分たちもいろんな魅力があります、長崎本線もいろんな魅力がありますと言われて、これば結べんですかねと、ちょっと夢ですけどと話がされました。鉄道で、多分諫早駅でつながればつながるといようなこともちょっとお伺いしたので、そういうことができればいいなと。これはあくまで夢ですけど、有明海をぐるっと回る鉄道の旅ということであれば、そういうのも一つの観光のいいアピールになるんじゃないかなというふうに思っていて、そういう話を諫早の市長とか島原の市長も交えてする機会が結構あります。道路期成会のときに東京に行ったときに、一緒に話をしたりとかするとき、そういう魅力をいっぱい持っているこの地域ですので、これからのスローツーリズム、我々がそれにちゃんと向き合わないといけないと思いますので、行政はもちろんです。民間もいろんな方々と手を携えれば、そういうことが今から夢が大きく膨らむんじゃないかなというふうに思っているところです。

あと、有明海の話がされましたので、ちょっと私もそのことについて。

今年、スミノエガキがいっぱいできたと言われたですね。確かに多かったんです。取れないときは少ないんですよ。こういう状況というのは、有明海の生き物で、ずっと取れるときと取れないときの周期があります。アゲマキもその周期に乗ってあったんですけど、一回取れなくなって、ずっと取れない状況です。アカガイも今取れなくなっています。やっぱりそういう周期があって、突然また復活するということがあります。だから、そのために有明海の環境をですね、我々ができるだけ復活できるような状況を守っていかなければいけないということもしっかり考えていかなければいけないと思います。

沖ノ島さんが有明海のことをちゃんと見ておられて、今の有明海のことを多分憂いておられるかもしれません。やっぱり我々がそういうふうには有明海のことをしっかり環境を守っていくという意識を持ちながら、地域の魅力発信につなげていくということのも大事じゃないかなというふうに思っています。

鹿島のほうでも去年は70周年の記念事業で「かしまBOOK」という本を作りました。あれは観光じゃなくて、人に着目して作った本です。いろんな人が鹿島におられて活躍をしておられます。この本をよそに持っていくと、ええ、いい本ですねと非常に喜ばれるんですね。やっぱりこういうふうな鹿島の魅力を我々も情報発信しながら、来てもらう人たちにぜひこの鹿島の魅力発信をやっていきなというふうに思っております。

樋口議員をはじめ、議員さんたちもぜひそういう意味で、鹿島の魅力発信と一緒に取り組んでいただければというふうに思います。

○議長（徳村博紀君）

7番樋口作二議員。

○7番（樋口作二君）

市長、ありがとうございます。何か未来が明るくなってきたような気分がしました。私たちが精いっぱい環境を守っていろんなことを取り組んでいきます。一緒に鹿島市を盛り上げていきたいと思っております。どうもありがとうございます。

○議長（徳村博紀君）

以上で7番議員の質問を終わります。

ここで10分程度休憩をいたします。11時20分から再開いたします。

午前11時6分 休憩

午前11時20分 再開

○議長（徳村博紀君）

休憩前に引き続き会議を開き、一般質問を続けます。

次に、2番宮崎幸宏議員。

○2番（宮崎幸宏君）

お世話になっています。2番議員の宮崎です。よろしくお願ひいたします。日頃からの鹿島市政執行につきまして、市職員の皆様に感謝申し上げるとともに、これからの豪雨や台風に対する災害対応におきまして、鹿島市民の生命と財産をしっかりと守っていただくよう、何とぞよろしくお願ひいたします。

それでは、通告に従いまして、肥前鹿島駅周辺整備事業に関する事、鹿島市の地域農業の将来の在り方と国道207号鹿島バイパスの沿道開発に関する事、この2つの事項につきまして一般質問を行います。

最初に、肥前鹿島駅周辺整備事業に関する事につきまして質問します。

本年3月に、鹿島市と佐賀県が連携して取り組む肥前鹿島駅周辺整備に関わる総事業費が5,320,000千円、そのうち鹿島市事業分が10億円であることが公表されました。この事業費に関しましては、佐賀県議会において先行発表され、翌日の報道により鹿島市民や市議会が知る事になりました。これまで鹿島市議会において再三事業費の提示を求めてきたにもかかわらず、市議会ではなく報道により知る事になったのは、市民や市議会が軽視されているように思え、とても残念でなりません。

いずれにしても、やっと事業費が分かりましたので、肥前鹿島駅周辺整備の事業費や事業効果に関して、しっかりと議論していきたいと思ひ、本日は肥前鹿島駅周辺整備の真価を問うべく質問をさせていただきます。

肥前鹿島駅周辺整備事業は、これまでの鹿島市の経緯や全体構想、コンセプトなど、社会経済情勢や地域特性を理由に進められ、経済的妥当性やコスト縮減への取組については議論することができませんでした。本来、公共事業においては、様々な評価項目により事業評価を行った上で事業実施の妥当性を判断すべきところであり、その中でも経済的妥当性、つまり費用対効果分析はとても重要であります。費用対効果分析とは、肥前鹿島駅周辺整備事業に要する費用、用地費、補償費、建設費、維持管理費などに対しまして、本事業を実施することによって社会的に得られる便益、利用価値がどれぐらいあるのかを数値化して評価するものです。

佐賀県は肥前鹿島駅周辺整備事業を、経緯の重みもあるので、単純に費用対効果で図るべき事業ではないと考えている、目的は地域づくりであり、地域づくりは効果を定量的に評価するのは難しいとの答弁があつていますが、鹿島市として、この肥前鹿島駅周辺整備事業、特に鹿島市事業分であり、駅の附帯施設となる駅前広場を整備することにより、鹿島市や市民にとってどれだけの事業効果、費用対効果があるのかについて伺います。

2つ目に、鹿島市の地域農業の将来の在り方と国道207号鹿島バイパスの沿道開発に関する事につきまして質問します。

鹿島市の地域農業に関して、農業センサスなど数値データによると、鹿島市の農業者数が2010年から2020年の10年間で30%減少し、作付面積も同様に、10年間で15%以上が減少して

おります。現在の2025年段階においては、共にそれ以上の減少が推測されます。

また、2020年時点の農業者年齢構成では、70歳以上が40%以上になっている反面、10代から30歳の若年層が7%にすぎないため、これも現段階ではさらに高齢化が進んでいるだろうと考えられます。

このように、人口減少や高齢化が進み、農業者が減り続け、耕作されない農地がこの20年間に40%以上増加しております。その対策として、農業経営基盤強化促進法の改正に伴い、5年、10年後の地域農業の設計図となる地域計画が鹿島地域の全地区で策定されました。これは地域の農業者の方の話合いに基づき、地域農業の将来の在り方を示すものであります。

前年、令和6年度に開催された北鹿島地区の農業者会議に私もオブザーバーとして参加させていただき、地域計画の策定に当たり、いろいろな意見を傾聴しました。鹿島市の地域農業は今様々な課題を抱えており、将来に不安を持つ農業者の方もいて、これまで地域農業を守ってこられた農業者が農業をやめるときに、その農地を誰かに耕作し続けてもらい、地域農業を何としても維持、継続することは、地域の農業関係者の方にとって共通する切実な願いだと感じたところです。

そこで、各地区の農業者会議を踏まえて、地域農業の現状と課題をどのように捉えているのかについてお伺いします。

以上で総括質問を終わります。

○議長（徳村博紀君）

執行部の答弁を求めます。堀鹿島駅前周辺整備推進室長。

○鹿島駅前周辺整備推進室長（堀 正和君）

それでは、肥前鹿島駅の件について御答弁をさせていただきます。

少し前段のところから申し上げます。費用対効果に関する考え方、あるいは広場の考え方、そういったことについてお答えをいたします。

肥前鹿島駅の目指す姿は、スローツーリズムの玄関口であり、暮らしの玄関口であります。スローツーリズムについては、先ほど樋口議員の一般質問でお答えしたとおりでございますので、一言で申し上げますけれども、従来のばたばたの観光旅行ではなくて、ゆっくりと鹿島の日常に触れてもらおうというものでございます。市民と来訪者の交流が生まれ、また鹿島に訪れたいと思ってもらう、関係人口を増やしていくということになってくるものと考えます。

駅は、そのフロント機能でありまして、スローツーリズムの玄関口と表現をしております。その中でも、市が担当する駅前広場については、初めて鹿島に降り立った方の第一印象を形づくる場所になります。市民が日常的にゆったりとくつろぐ空間があって、駅から降りた来訪者の心をつかみ、中心市街地や市内のスポットに送り出す、そういった出発点になる場所

になります。

そして、駅前整備は手段、きっかけでございまして、中心市街地をはじめとした、まち全体に効果を波及させたいと考えています。まさにまちづくりであると考えています。

次に、県の費用対効果に関する考え方を少し御説明いたします。

総事業費のうち、県主体の事業費は全体の8割以上に上ります。去る令和7年2月の県議会の常任委員会における令和7年度予算審査での県執行部の方の答弁要旨になります。これまでの経緯の重みがあり、費用対効果で図るべき事業ではない。道路であれば時間短縮や事故減少率などで表せるものがあるが、プロジェクトの目的が地域づくりということを考えると、この効果を定量的に評価するのは難しいとし、この事業は費用対効果の測定にはなじまないということではなされております。

さらに、これまでの、あるいはこの地域における経緯の重みとはどういうことかということでも申し上げます。長崎に至る西九州新幹線が3者合意で出来上がった経緯、このとき県としてもぎりぎりの判断で同意をされた。当時、博多から長崎まで全線フリーゲージトレインでつなぐという計画でございました。そこを苦渋の決断で県としても決定したけれども、最終的にフリーゲージトレインは国が断念した状態で開通をしているという状態。これは長崎本線の沿線住民は複雑な思いを持たれている。これは今もって続いているというようなことがございました。

この西九州新幹線武雄温泉－長崎間の佐賀県の負担金額は360億円、うち実質的な県の負担は200億円と聞いております。一方で、利便性が大きく低下した長崎本線沿線に対して、今回のプロジェクトを推し進めることが県として公平性やバランスを欠くとは思わない。あわせて、新幹線の光と影をなくし、長崎本線沿線地域の振興に県として全力を注ぐと県議会において明言をされております。

県としては、県土全体の均衡ある発展を図るべく、また、経緯の重みに鑑みて、この地域における地域づくり、まちづくりに集中的に力を尽くすということを繰り返し伝えられております。そして、2月県議会閉会日に、3年間の継続費24億円を含む約27億円の予算が原案どおり可決をされ、本プロジェクトが本格的にスタートしたということになります。

そして、市の考え方になりますが、プロジェクト全体においてもであります。市が担当する駅前広場整備においても、今回の整備を単なるハード事業とは位置づけておりません。冒頭に申し上げたようなまちづくりだという意識で取り組んでおります。

前述のように、道路であれば時間短縮効果を便益額として数値化されると思いますが、スロートーリズムの玄関口は、むしろ時間をかけてゆっくりくつろいでいただきたい場所であり、さらには駅前から広く市内に効果を波及させていくことを目的としたまちづくりであることから、これは県の考えと同様になりますが、玄関口のにぎわいや、まち全体の魅力向上を数値化し、便益として算出するという事はなじまないと考えております。

費用対効果に対する県の考え方、市の考え方、以上の内容については新年度予算審査特別委員会でも詳しく御説明をさせていただいて、原案のとおり令和7年度予算を可決いただいたというところでございます。

ただ、何の効果指標もないのかというところの御指摘もあろうかと思えます。効果指標につきましても、今年度申請しておりました国庫補助事業については、無事に採択を受けておりますけれども、これら国庫事業に取り組む以上は、目標を定量化する指標を掲げて取り組むということになっております。具体的には、まちづくりやにぎわいづくりの効果を図る指標ということで、これらの指標について数字を上げて目標を立てて、今後の市の事業における達成度合いを図る指標としているところでございます。

以上です。

○議長（徳村博紀君）

星野農林水産課長。

○農林水産課長（星野晃希君）

私のほうから地域の農業の現状及び課題につきまして、農林業センサスなどのデータを交えながら答弁をさせていただきます。

鹿島市の農家数は、農林業センサスによりますと、2010年の1,911人に対して、2020年は1,329人と減少いたしております。また、年齢別の構成でも、60歳以上が全体の75%を占めておまして、農業者の減少と高齢化が進んでいるところでございます。

また、農作物の耕作面積は、同じくセンサスによりますと、2010年の2,214ヘクタールから、2020年は1,853ヘクタールへと減少しております。

農業委員会の調査におきますと、遊休農地は2015年の565ヘクタールから、2024年は812ヘクタールと増加をしておまして、周辺農地への悪影響も問題となっている状況であります。

そのような中で、先ほどありました、今年2月までに鹿島市内6地区で農業者や関係機関の方々と共に地域計画を策定する中での話し合いを行っております。その各地域の話し合いでは、地域農業の現状や課題、そういった将来に対する様々な心配なことが話題に上りまして、中でも、どの地域も共通した主な課題が5つありました。

まず1つ目が担い手の減少と高齢化、2つ目が耕作放棄地の拡大、3つ目がイノシシ被害の拡大、4つ目が農作物の適正価格、5つ目が担い手が少ない中での農地の集積・集約化、これらが共通した主な課題として挙がりました。

また、これは鹿島市だけではなく、全国共通の農業が抱えている課題でもありまして、特効薬のようなすぐに解決するような正解はありませんけれども、また、農業者の一個人では解決できない問題ともなっているところでございます。

以上が地域の農業の現状及び課題として答弁させていただきます。

以上です。

○議長（徳村博紀君）

2 番宮崎幸宏議員。

○2番（宮崎幸宏君）

肥前鹿島駅周辺整備事業の事業効果に関しましては、佐賀県同様、地域づくり、まちづくりの観点から、費用対効果の算定はなじまないとの答弁でしたが、鹿島市民の税金を含む公金を使う公共事業である以上、地域づくり、まちづくりとして事業を行うことで、経済効果など、どれだけ市民に対する便益や恩恵があるのかを説明する責任、義務があります。費用対効果の算定をしないということは、本整備事業は説明がつかない高額な支出と解されます。令和7年度予算では、教育、福祉、道路維持など、市民生活に直結する予算が制限される中、各担当課において事業費を工夫、やりくりされております。地域づくり、まちづくりであれば際限なく事業費を投入できるのでしょうか。地域づくり、まちづくり、費用対効果の算定はなじまない、言葉のみで片づけるのではなく、総事業費5,320,000千円、鹿島市事業費分10億円が高額な投資ではなく適正な事業であることをしっかりと証明していただきたい。

本整備事業に当たっては、駅周辺施設や中心商店街に市民の参加やにぎわいを創出する施策など、いろいろな仕掛けづくりが予定されています。そのために、かしま公共交通体験フェスタのような実証実験が行われます。そういうようなデータを活用して費用対効果の試算はできると思います。その上で定量評価が困難であるならば、費用対効果の算定はなじまないことを立証してください。これからもその都度、事業効果に関しては監視していきます。

それでは、肥前鹿島駅周辺整備事業について、さらに質問します。

鹿島市が佐賀県との共同で行う総額5,320,000千円の大型公共施設事業の内容及び事業費の内訳を教えてください。

その前に、モニターを御覧ください。

〔映像モニターにより質問〕

こちらは前回3月議会予算審査特別委員会の本事業に関する説明資料になります。答弁に当たっては、この資料を用いて市民の方に分かりやすく御説明願います。

○議長（徳村博紀君）

堀鹿島駅前周辺整備推進室長。

○鹿島駅前周辺整備推進室長（堀 正和君）

〔映像モニターにより説明〕

それでは、事業費概要について御説明をいたします。

今年度から着工いたします肥前鹿島駅整備は、本市の大型プロジェクトと位置づけております。概算の全体事業費は5,320,000千円で、これは大きな事業費となりますけれども、8割以上が県主体事業であり、市の実質事業費は約10億円を見込んでいただいております。

その内訳ですけれども、青い文字の部分が県の事業ということになります。そして、赤い

囲いの部分が市の事業ということになります。県事業におきましては、新駅舎が2,890,000千円、復原駅舎が410,000千円、ロータリーが12億円、合計が45億円。このうち一部市の県工事負担金分を考慮しますと、再計しますと4,320,000千円となります。

市の事業としましては、駅前広場が約4億円、駐車場約120,000千円、駐輪場約1億円、場内線約1億円、関連事業費約1億円、そして、県工事負担金分ということで約180,000千円、合計しますと10億円ということで見込んでおります。事業費については、基本計画の途中段階での積み上げですので、概算の金額ということになります。

以上です。

○議長（徳村博紀君）

2番宮崎幸宏議員。

○2番（宮崎幸宏君）

次に、鹿島市の事業費10億円の財源について、こちらもモニターの資料を用いて説明をお願いします。

○議長（徳村博紀君）

堀鹿島駅前周辺整備推進室長。

○鹿島駅前周辺整備推進室長（堀 正和君）

〔映像モニターにより説明〕

お答えいたします。

市の事業費の財源内訳について御説明をいたします。

一番上の横軸というのが、先ほど御説明いたしましたそれぞれの事業区分における市の事業費の合計が10億円ということになります。

その下の2段目のところが財源内訳ということになります。

国からの補助金、これを4億円と見込んでいます。なお、今年度申請しておりました国庫補助金については採択を受けているというところがございます。

また、市債については、交付税措置のある有利な起債を充当するというで考えております。償還額の22.2%か30%が交付税措置がなされますので、市債5億円としておりますが、実質的な市債償還額は、交付税措置相当額を引いて約4億円に圧縮されると考えております。

そして、一般財源は国庫補助、市債を充てた残りになります。約1億円を見込んでおまして、最終的な市の実質的な負担は約5億円の見込みとなります。

これを各年度の予算ベースで考えますと、事業期間5年間で、一般財源約1億円ですので、単純に年間の一般財源平均20,000千円、その後の市債の償還期間、これにおいても実質負担で考えますと、年平均20,000千円と見込んでおります。このように平準化をすることで、年間で世代間の均衡が図られ、持続可能な行財政運営が可能と判断をしております。

今回の事業は、そもそも8割以上が県事業であること、そして、国庫補助事業の採択が決

定していること、交付税措置のある地方債を活用することなど、国や県の支援を取り付け、有利な財政措置を講じながら、知恵を絞りながら進めていくということを皆様に御理解いただければと思います。

以上です。

○議長（徳村博紀君）

2番宮崎幸宏議員。

○2番（宮崎幸宏君）

説明ありがとうございました。

それでは、今年度より鹿島市と佐賀県がそれぞれに予算措置され事業開始されますが、令和7年度における鹿島市事業分と佐賀県事業分の内容についてお伺いします。

○議長（徳村博紀君）

堀鹿島駅前周辺整備推進室長。

○鹿島駅前周辺整備推進室長（堀 正和君）

今年度取り組む事業の内容について御説明をいたします。

まず、令和7年度の県の事業内容について申し上げます。県予算については、先ほど申し上げたとおり、県議会で原案どおり可決をされ、県でも国庫補助の採択が決定されており、様々な要件がそろい、いよいよ今年度から工事が始まります。まずは新駅舎の造成工事のスタートということになります。これは今年秋頃からの着手の見込みでございます。

次に、市の工事ですけれども、県よりも少し前に動き出します。新駅舎の造成工事が始まる前に、駐輪場の移設、駐車場のスロープの移設を行います。また併せて、新しい駐車場のスロープの用地交渉及び工事を予定していますが、これは県の駅舎造成の擁壁工事と一体的な工事を進めるということで準備を進めているところです。

以上です。

○議長（徳村博紀君）

2番宮崎幸宏議員。

○2番（宮崎幸宏君）

今年度、市営駐車場整備の一部の用地取得が実施されるとのことでしたが、駅前広場を含めた肥前鹿島駅周辺整備に係る用地取得の土地評価の考え方や土地価格の水準価格帯についてお伺いします。

○議長（徳村博紀君）

堀鹿島駅前周辺整備推進室長。

○鹿島駅前周辺整備推進室長（堀 正和君）

用地取得に関する考え方、それから、価格に関してということの御質問でございました。現時点におきましては、算定業務に着手しておりませんので、数値としては持ち合わせて

いないということになりますけれども、算定方法につきましては、取引事例比較法により算定をするということになります。取引事例を基に、近隣の標準的な条件の土地における標準値単価を求め、これに各種補正をかけて、一方で工事価格でありますとか必要に応じて不動産鑑定価格等も参考に、標準地価格を算定し、評価額を求めるという流れになります。

その後、用地取引の相手方との交渉を行うという段階に入っていくわけですがけれども、事業を円滑に進めていくためにも、公にすることは差し控えさせていただきます。

以上でございます。

○議長（徳村博紀君）

2番宮崎幸宏議員。

○2番（宮崎幸宏君）

公共用地の取得に伴う損失補償基準要綱におきましては、正常な取引価格をもって用地取得することが定められています。市民の税金によって正常な取引で用地取得をされるかどうか、我々は市議会としてチェックしなければなりません。土地評価、一般的な考え方は今説明がありましたけれども、より具体的な土地評価の考え方と土地価格の水準、価格帯、これらの個人情報に該当しない範囲で開示していただきたいと思いますので、いかがでしょうか。

○議長（徳村博紀君）

堀鹿島駅前周辺整備推進室長。

○鹿島駅前周辺整備推進室長（堀 正和君）

参考値でもということを開示ができないかというようなことであつたかと思えますけれども、これについては、繰り返しになりますけれども、用地交渉の相手方に配慮して、参考値を含めて具体的な数値は申し上げられません。やはり情報を扱う立場にあつて、出せるもの、出せないものがございます。買収金額に関する情報を出すように要求をされ、結果出したということになれば、事業進捗にどのような影響が出るか分かりません。慎重に進めているということをどうか御理解ください。申し訳ございませんが、個別の用地に関する具体的な数値、参考値を含め出せません。

以上、どうか御勘弁いただきたいと思えます。

○議長（徳村博紀君）

2番宮崎幸宏議員。

○2番（宮崎幸宏君）

あくまで個別の情報ということではないですので、これ以上質問、答弁をしたら繰り返になりますので、この後もその辺の情報開示はしっかりしていきますので、よろしくお願ひします。

次に、鹿島市と佐賀県が共同事業を行う前提として、事業施工や事業費の負担、維持管理など、様々な確認や取決めがあろうかと思えます。その中でも、本事業完了後、継続して多

額の費用が必要となる維持管理に関しては佐賀県との確認が重要であります。長崎本線が上下分離方式の経営になって約3年が経過しました。20年後にはJ R九州が運行から撤退することになっています。その際、第三セクターによる運営になった場合には、今回整備する大規模な駅舎施設が鹿島にとって多大な負担になる可能性があり、状況次第では鉄道自体が廃止になった場合、不要な施設になりかねません。

そこで、駅周辺整備事業の完了後、完成した各施設の維持管理についての考え方と、上下分離方式後、J R九州が運行撤退した後の駅舎の取扱いに関して、佐賀県との確認や取決めについてお伺いします。

○議長（徳村博紀君）

堀鹿島駅前周辺整備推進室長。

○鹿島駅前周辺整備推進室長（堀 正和君）

整備後のことについてのお尋ねでございました。お答えをいたします。

建設整備後の維持管理に関しましても、県と市の工事の事業区分をそのまま引き継いでいき、その施設の所有者がそれぞれ維持管理をしていくという考え方になります。つまり、新駅舎、復原駅舎は県が、広場、駐車場、駐輪場は市が管理をしております。

実際の管理業務については、職員を置いて直営管理をするということがないのではないかと考えておりますので、委託等による管理になるのかなというふうに思っております。

それから、上下分離後の23年間経過して、その後ということですが、これについては佐賀県、長崎県、J R九州の3者で確認されている、それそのものが23年間運行するという合意内容ですが、23年後については改めて協議をされるということになります。ですので、現段階で20年後にどうなるかということで申し上げる情報はございませんけれども、その時々判断が必要になるだろうというふうに思っております。

ただ、これは肥前鹿島駅だけの駅一個の問題ではございません。我々としては長崎本線沿線の各駅舎、その周辺を使った企画、そういったものも考えながら、一つの駅だけでなく長崎本線を多くの方に使っていただくというような手法を考えていくこと、そして、長崎本線を長く守っていくことが大切なことであろうと思います。

以上です。

○議長（徳村博紀君）

2番宮崎幸宏議員。

○2番（宮崎幸宏君）

鹿島市にとって上下分離方式後、J R九州が運行撤退した後の駅舎の取扱いはとても重要だと思っています。しっかりと佐賀県、関係機関と協議していただき、その協議内容については随時市議会のほうへも説明をお願いします。

次に、鹿島市は人口減少と少子高齢化の社会問題に直面しています。それに加えて、長崎

本線の博多駅方面の特急減便と長崎方面の特急廃止以降、鉄道移動の不便さ、鹿島市への交流人口の減少など、市民の方の利便性の低下や経済縮小といった厳しい現実となっています。さらに、JR九州においては、本年、令和7年度にさらなる特急減便、そして、20年後の経営分離となり、鉄道による交通手段が保持できなくなりつつあります。

このような鹿島市を取り巻く社会問題や鉄道需要などがあるにもかかわらず、駅周辺整備事業の現計画を推し進めることは、ずっと疑問に思っています。市の人口規模、駅の利用客数、バスとの交通アクセス状況などの現状検討、人口減少、少子高齢化の要因や将来事情、今後の鹿島市の財政状況を考えたら、はっきり言って鹿島市の身の丈に合っていないと思います。総事業費5,320,000千円、鹿島市事業費分10億円の公金を費やす大型公共施設事業、

〔映像モニターにより質問〕

こちらのモニターの映像のように、鹿島市と佐賀県が掲げる肥前鹿島駅エリアはスローターリズムのゲートウェイで、これを実現できるのでしょうか、どのような公算があるか、お伺いします。

○議長（徳村博紀君）

松尾市長。

○市長（松尾勝利君）

人口減少、それから少子高齢化が進んでいる中、また、鉄道事業、特急が14本から10本に減ると、そういう状況の中でこの事業を進めていいのかというような御質問だというふうに思います。

人口減少とか少子高齢化の波は、鹿島市に限ったことではなくて、全国的な問題であります。また、鉄道事業にかかわらず、全ての施策に影響を及ぼすというふうに考えています。

議員も危惧されている農業とか漁業の担い手問題も深刻な課題でありますし、商店街の振興もしかりでありまして、地域活動そのものもそれぞれの地区の役員さん方が苦勞いただいているというふうに思っています。それぞれに今できる支援を行いながら、時間を要することは計画的に取り組むなど、全体を俯瞰して考えていかなければいけないと思っております。

その施策の一つとして、長崎本線はじめとした公共交通を守る取組として「かささぎでGo!」キャンペーン、それから、かしま公共交通体験フェスタなどに取り組んでいるところです。日頃から長崎本線の利用を市民の皆さんにもお願いしているところです。そういった積み重ねが大事ではないかというふうに思っています。

公算の話でありますけど、なぜ今のタイミングで駅前整備をやらなければいけないかというところで、その意義を少し丁寧に説明します。

この事業は、市議会でも平成24年、それから、商工団体でも平成30年、いろんな提言をいただきました。市としても長年総合計画に掲げてきた、実現しなければならない施策であります。しかしながら、なかなか関係者の足並みがそろわない。そういう中で、駅舎は年々老

朽化をしております、交通混雑は解消できずに危険なまま、また、目の前が変則の道路で、玄関口としてのにぎわい空間の創出も難しい、こういう状況が続いてきたわけです。何十年も積み残された長期的な課題であったというふうに思います。

私が市長に就任した令和4年5月、そして翌月の6月に、本事業をさらに前進させるために、知事にお会いして、鹿島市が市民の声を集めてつくってきた全体構想、基本構想を基に、県によるさらなる支援をお願いするという旨の支援要請を行いました。

それから数か月後の令和4年9月に西九州新幹線が開業、長崎本線は上下分離になり、駅や線路が県の所有になる、そういう節目のタイミングであったというふうに思います。

駅舎の改築というと、普通の駅でいいますと、JRへ要望を試みてということになりますが、現実には、すぐ承諾される、はい、そうですかというわけにはいきません。近年、改築や整備をされたJR本線の駅の例を取りますと、JRの主体事業で整備されたものは多くありません。ほとんどが駅の立地市町が事業主体となって建設をされ、その後は、駅舎は市有財産として保管されるということが通常の在り方です。

一方、肥前鹿島駅の所有者は、上下分離とともにJRから佐賀県になりました。県はこれまでの経緯を重く見て、新幹線の光と影をなくす、これはよく言っていることですが、長崎本線沿線地域の振興に県として全力を注ぐとして、さっきおっしゃった総事業費五十数億円のうち8割以上を県主体事業で取り組まれる、県の肝煎りの事業として動き出すということになりました。

令和4年6月の私の支援要請から3年がたって、いよいよ工事着工になります。鹿島市の長年の課題に対して大きな支援を受けながら事業を進めていくことができるというのは、このタイミングがベストであったというふうに思っております。

私が皆さんにそれぞれ丁寧にこのことは説明をしていかなければいけないというふうに思っております、6月上旬に市内全世帯に駅整備事業のチラシを配付させていただきました。市民の皆さんへのメッセージとして、駅整備とは、駅舎や道路を整備して終わりではありません。まちの玄関口を整備することで、中心市街地をはじめ、まちの全体のにぎわいを広げ、私たちのまちそのものの価値を上げることを目的としています。このプロジェクトを通じて、鹿島市の将来に向けたまちづくりを皆さんと一緒に作り上げていきましょう。そういう思いを伝えさせていただきました。

この後、6月28日と29日には市長と語る会を開催いたします。駅前整備事業についても、市民の皆さんに私から直接説明をさせていただきます。

また、7月2日には、佐賀県、鹿島市、太良町共催で、市内の施設ピオにおいて「むしろこれから鹿島・太良フォーラム」を開催いたします。

前述のとおり、ハード整備に対する財政的工夫を最大限にやっていることは当然のこととしまして、この事業はハードだけではございません。鹿島のまちづくりを市民の皆さんと協

働で進めなければならない大事なプロジェクトだというふうに思っております。どうぞ皆さんの御理解をいただきたいというふうに思います。

以上です。

○議長（徳村博紀君）

午前中はこれにて休憩をいたします。

なお、午後の会議は1時5分から再開いたします。

午後0時5分 休憩

午後1時5分 再開

○議長（徳村博紀君）

午前に引き続き会議を開き、一般質問を続けます。

2番宮崎幸宏議員。

○2番（宮崎幸宏君）

引き続きよろしくお願ひいたします。

肥前鹿島駅駅舎につきましては、老朽化などもあり、鹿島市に訪れた方の最初のまちの印象として、よいイメージを持っていただくためにも、新装することに関しては理解しております。また、長崎本線特急減便、廃止を契機に、前向きに捉える気持ちとしても大事です。

しかしながら、現実と将来性を見極めた公共施設事業を判断することは、より重要なことでもあります。鹿島市が佐賀県との共同で行う総額5,320,000千円の大型公共施設事業、鹿島市の負担額10億円、そのうち半分は鹿島市民の税金、一般財源であり、次の世代の方が負担する借金、市債であります。もっと言えば、5,320,000千円全てが、国民であり県民である鹿島市民が納めた公金となります。

過去より市民の方から肥前鹿島駅周辺整備の要望はありましたが、今回分かった5,320,000千円の高額な事業につきまして、市民の方が理解し、歓迎してくれるでしょうか。今度行われる市長と語る会のほうで、先ほど市長から答弁がありましたように、本件の整備事業について説明をされるということでした。しっかりと市民の方に真意を伝えていただき、ぜひ鹿島市民が納得し、鹿島市の民意が伴う肥前鹿島駅周辺整備事業になることをくれぐれもお願ひします。

それとともに、鹿島市事業分の10億円につきましては、あくまで概算額ということで、事業費管理上限額として私は捉えておりますので、コスト縮減のほうに努めていただくよう、併せてよろしくお願ひいたします。

続きまして、鹿島市の地域農業の将来の在り方と国道207号鹿島バイパス沿道開発につきまして、さらに質問します。

先ほど答弁にあったとおり、鹿島市の地域農業において、農業者の高齢化、後継者・担い手不足、耕作放棄地、荒廃農地の増加など様々な問題があり、非常に厳しい状況に置かれて

います。地域の農業者の高齢化により年々離農する農業者がある一方で、その後継者や新規就農者が思うように増えずに担い手不足になっております。これにより耕作放棄地や荒廃農地が増加しているという悪循環となっているところです。このまま農業者の減少や耕作放棄地が拡大し、地域の農地が適切に利用されなくなれば、鹿島市の基幹産業である農業が衰退していくことが懸念されます。

そこで、農業者の高齢化や減少に伴う耕作放棄地の対策として、農地の効率的かつ総合的な利用の観点から、どのような考えがあるのか、お伺いします。

○議長（徳村博紀君）

星野農林水産課長。

○農林水産課長（星野晃希君）

お答えをいたします。

昨年度末までに策定をいたしました地域計画、その地域計画の策定の中での話合いにおきましては、今後、農地として残していく農地、それから、農地としての活用は難しいため、今後は保全管理をしていく農地、それぞれの区分について話合いをしていただいたところです。

その話合いの中で、能古見、浜、古枝、七浦地区につきましては、耕作放棄地やその周囲にある傾斜が急で作業効率があまりよくない農地などは、今後、農地としては利用せず、保全管理を行う農地に区分をされております。一方、平たん部の鹿島や北鹿島、あと、海岸のほうの干拓にある農地につきましては、どの農地も圃場整備による区画整理が終わっている優良農地であるために、基本的に将来農業用として残すべき農地に区分をされております。一部周囲に農地がなく、宅地に囲まれている耕作放棄地であったり、家の周囲にある不整形な農地などが保全管理を行う農地に区分をされております。

今後の地域農業を継続するためには、一団の土地としてまとまっており、作業効率がよい優良農地を守っていった、あと、分散する担い手の農地を面的に集約するとともに、また中山間地域では、パイロット農地や施設を効率的に活用するための区域分けや再編統合も今後検討していく必要がございます。

そういった中で、これらの農地を栽培していく将来の地域農業の担い手を確保することが課題であり、そのためには新規就農者の支援や担い手への効率的な農地の集約化、その農地集約のための園芸団地などの基盤整備などを進めていく必要があると思っております。

また、集落営農の法人化や地域内に担い手がない場合の企業参入なども検討していかなければならないという意見もありましたが、市としても、この意見と同様に、対策や支援を講じる必要があると考えているところでございます。

以上です。

○議長（徳村博紀君）

2 番宮崎幸宏議員。

○2 番（宮崎幸宏君）

今後、地域の農業者の離農によって耕作放棄地となるような土地を計画的に集積、集約することによって、農作業を連続的効率よく行えるようにし、農業経営の規模を拡大していけば、農業全体が活性化し、新規参入が増え、耕作放棄地の解消につながるかもしれません。しかしながら、従来の個人農業や地域の集落営農組織、農事組合法人では、大規模な経営体力に乏しく、地域農業の担い手の確保が難しくなっているのも現状であります。

農業者会議の中で、農業法人企業に任せたい、あるいは地域において農業法人会社を設立し継続してもらいたいなどの意見がありました。私も農業法人の企業参入や地域農業法人会社による引継ぎについては、地域農業の担い手、後継者確保、ひいては地域農業の維持継続のための有効な手段と考えます。最大の課題は、地域農業の担い手、後継者の確保です。

そこで、このような地域農業の現状と課題を踏まえて、鹿島市として地域農業の将来の在り方をどのように考えているか、お伺いします。

○議長（徳村博紀君）

星野農林水産課長。

○農林水産課長（星野晃希君）

お答えをいたします。

地域農業の将来の在り方、地域農業を維持していくためには、やはりおっしゃるように担い手を確保することが重要だと思っております。

そこで、鹿島市では経営開始時の支援といたしまして、国の新規就農者支援給付金などの資金援助や、あと、市単独での新規就農者への支援金給付などを行っております。

また、就農後のハウス建設のための支援事業として、国や県事業を活用したり、あと、トレーニングファームの運営の支援であったりとか、トレーニングファームへの県外からの研修生の生活支援など、市単独での支援も行いながら担い手確保を図っているところであります。

また、今後の地域農業を維持するためには、個人経営では厳しく、農業経営の長期的な安定や農作業の作業効率化、大規模な農地の安定的な利用などを可能とするため、集落営農組合の法人化も推進していく必要があると考えております。

この集落営農法人のメリットとしましては、集落内に分散する農地や大規模な農地を一体的に利用できるため、品目ごとブロック化することや、1筆の農地の大区画化などもスムーズに実施できるようになります。また、国の補助事業を活用できるため、大型の共同機械も導入しやすくなるなどのメリットがございます。

ただ、一方では集落営農組織の法人化には課題もございます。鹿島市には3つの集落営農法人と17の集落営農組織がございます。法人化には、集落内での意見の相違や、設立時やそ

の後の運営に必要な専門的知識の不足、また、役員の成り手がいないとか、組織化に必要な話合いに相当の時間を要するなど、簡単には進んでいないのが現状となっております。

そのような中でありますが、法人化への市の支援としましては、法人化に必要な手続の情報提供や集落での研修会の開催、今後の経営ビジョンの策定の支援や佐賀県の相談窓口との調整など、法人化がスムーズに進められるような支援を行っております。

また、国の法人化への支援事業の紹介や、市の単独補助事業として、法人化に必要な事務的経費等の補助を行う鹿島市農業経営法人化推進事業費補助金などもございます。

集落営農法人を立ち上げる際は、専門的な知識や関係機関への手続なども必要となります。この集落内に手続ができる方がいればスムーズに行うことができますけれども、そうでない場合はコンサルタントへ手続などを依頼する方法もございます。専門的な知識やノウハウの提供、スムーズな法人化のサポート、集落営農の状況や将来の展望を踏まえた最適な法人経営体の選定、経営戦略や資金調達計画など、具体的な事業計画の策定やサポート、金融機関や法務局などの手続に必要な関係機関との調整等をサポートしてもらうこともできます。また、コンサルタント導入に係る費用の一部につきましても、国や市単独補助事業での支援を受けることができます。

地域計画の話合いの中でも、企業参入について、参加者の方からは賛成や反対の意見、地域としてのメリット、デメリットがあるなど、様々な議論がございました。

賛成意見やメリットとしては、農業者の減少や高齢化によって人材が不足している地域では、企業の参入が担い手の確保につながることで、また、いろいろな技術や経営能力を持った企業の参入によって、最先端技術や経営の新たなノウハウなどがその地域へ広がることもあるため、地域農業の活性化や効率化、ブランド化なども期待できること、また、大規模企業の参入の場合は地元雇用の創出につながるなどの意見がございました。

また一方で、反対意見やデメリットとしましては、これまで地域の農業を支えてきた農業者との間での経営方針や地域農業のルールなどの違いからくる摩擦が発生するのではないかと、地域が共同で行う掃除や農道、水路の維持管理作業などに企業が参加してくれるかどうか心配している、また、利益を優先して、利益が出ないと判断した場合はすぐに撤退するのではないかとというような不安、また、ントリーなど共同乾燥施設を企業が活用しない場合は、施設の維持管理の負担が増えていくのではないかなどの意見がっております。

これらの意見を踏まえ、地域計画では、地元農業者との協議や協働活動、共同施設の利用促進を図りながら、担い手確保の手段として企業参入を進めていく旨を地域計画にも盛り込んでいくところであります。

企業参入への鹿島市の支援としましては、市との協定締結によって遊休農地を大規模に活用して担い手確保や雇用の創出を行いながら、農業を開始する場合に鹿島市企業等農業参入支援事業補助金を交付いたしております。

また、佐賀県と連携をいたしまして、大規模の農地や遊休農地を企業へあつせんしたい集落がある場合に、集落の農地と企業をマッチングするオープンファームランドなどを今年度実施する予定となっております。

このような取組を行いながら、将来の地域農業の担い手や後継者を確保しつつ、地域農業を支える農業者と農地を守っていきたいと考えているところでございます。

以上です。

○議長（徳村博紀君）

2番宮崎幸宏議員。

○2番（宮崎幸宏君）

多種多様な支援の取組、ありがとうございます。現在の日本の農業問題である米価格や米の生産調整、所得補償は国の農業政策としてお願いし、鹿島市としては、地域農業を守るべき新規就農者などの担い手確保、集落営農組織による農業法人化、地域外からの新たな担い手確保となる企業参入などに様々な支援策をしてもらい、地域農業の担い手、後継者の確保に全力で取り組んでいただきたい。そのために、これからも地域の農業者の方と話し合いを重ねていただき、地域の農業の将来、未来像をつくり、主役である地域農業の方々が頑張ってお実行していこうという共通認識を醸成してもらえばよろしいかと思っております。何とぞよろしくお願い申し上げます。

さて、これまでのやり取りで、鹿島市の地域農業の現状が厳しいものだと分かっていただけたと思っております。鹿島市の基幹産業は第1次産業であり、農業の維持、農地の保全はこれまでと変わりなく継続すべきであります。しかしながら、誤解を恐れずに言いますと、鹿島市の地域農業は、農業振興から農業維持継続へと転換しなければならない時期だと思い、この農業問題を踏まえて、鹿島市のまちづくりを見直すべきだと考えます。

昨日の伊東議員の一般質問において、国道207号鹿島バイパスの沿道開発について議論がありました。従前から同じように、執行部の答弁は、鹿島バイパスの沿道開発については、現行の農業振興地域整備計画に基づき、具体的な転用案件ごとに農業振興地域から個別に除外し、農地から宅地に転用をしていく方針と。これについては私も理解はしています。ただ、この方法では、農業振興地域からの除外条件により農地転用が抑制され、ゆえに各企業や事業者が鹿島バイパスの沿道への進出、出店をマーケティングしても、このような条件や制限があれば敬遠され、なかなか誘導しにくい現状だと思っております。

そのため、これからの鹿島市の地域農業政策とまちづくりを考え、鹿島市全体の土地利用を総合的に捉えて、農業振興地域整備計画と都市計画を調整し、鹿島市の地域農業を守りつつ、経済発展や産業振興のために農業振興地域整備計画と都市計画を見直すべきと提唱しているところです。つまり、農業振興地域から個別除外ではなく農業振興地域指定の一部の除外をするために、抜本的に農業振興地域整備計画を見直すということです。この辺の認識の

違いがあるため、幾ら質問、答弁しても、同じことの繰り返しだと思っております。恐らくまた聞いても同じ答弁だと思いますので、最後の質問に移ります。

またモニター画面を御覧ください。

〔映像モニターにより質問〕

以前の質問におきまして、有明海沿岸道路や国道498号鹿島―武雄間によって、国道207号鹿島バイパスは鹿島市に経済の活性化、産業振興、観光促進等、様々な効果を発揮させ、そのバイパスの沿道開発により、雇用拡大、税収対策などをもたらし、鹿島市が県南西部における商圈、経済圏の中核都市になり得ることに言及しました。都市計画におけるアドバンテージかつポテンシャルがある鹿島バイパスを生かした鹿島市の将来に向けた投資計画、まちづくりについて進言したところです。

現行の第七次鹿島市総合計画において、国道207号バイパス沿道については、有明海沿岸道路、国道498号鹿島―武雄間などの広域幹線道路の整備動向を見据えながら、農村環境と調和した土地利用を推進する施策の展開が示されています。

また、鹿島市都市計画マスタープランにおいても、国道207号バイパス沿道の一部の土地利用を検討し、広域交流や連携の促進を図る。国道207号バイパス沿道は農地保全を前提とし、現行法との調整を図りながら土地利用を促進、国道207号バイパス沿道は当面の間は現行法での土地利用を図りつつ、将来的には沿道サービス機能の立地を検討、有明海沿岸道路の延伸を見据えた企業の誘導による雇用の創出を図ると、目指す鹿島バイパスの沿道開発に関する土地利用について前向きな方針が示されています。

現在事業中の有明海沿岸道路に待望の国道498号鹿島―武雄間がスタートしたことで、広域幹線道路の整備動向が見えてきました。当然、第八次総合計画においては、これまでの都市基盤の整備方針を進展させなければならないと思います。有明海沿岸道路や国道498号鹿島―武雄間の整備動向を見据えた土地の利用の推進、すなわち鹿島バイパスの沿道開発をどのように考えられているか、改めてお伺いします。

○議長（徳村博紀君）

堀都市計画課長。

○都市計画課長（堀 正和君）

国道207号鹿島バイパス沿道開発に関しての御質問でございました。

基本的には、昨日も市長からの答弁がございましたとおり、現行法に基づく農地保全を行った上でということでの供用という形の方針というのは、現在続いている状態ということになります。

第七次総合計画にも触れられましたけれども、総合計画そのもの自体は、まとめ方とか表現の仕方というのは、その時代時代、自治体ごとの裁量、独自のものでつくられていくものだと思っています。先ほどおっしゃったような沿線開発についての表記という形で、七次総

なっておりますけれども、八次総における表現方法についてはともかくですけれども、考え方としては、第七次を踏襲するものということで考えております。すなわち、広域幹線道路である有明海沿岸道路と国道498号線の整備については、その整備動向を見据えながら土地利用の推進について考えていかなければならないという点は、今後も必要であるというふう
に承知をしております。

以上です。

○議長（徳村博紀君）

2番宮崎幸宏議員。

○2番（宮崎幸宏君）

鹿島市にとって、社会情勢の変化に応じて何度も転換期があったと思います。この農業問題を含めたまちづくりは、これまでの中でも最大の転換期、変換期だと言えます。松尾市長、鹿島市のために責任を持って将来に向けた鹿島市の地域農業政策とまちづくりを考えてもらい、英断してもらおうことを強くお願いします。

最後に、冒頭にも申しましたが、これからの時期、豪雨や台風が予想され、過去の豪雨災害を思い出します。それと緊張感と恐怖感を覚えます。災害が起こらないことを切に願いつつ、私の一般質問を終わりにいたします。ありがとうございました。

○議長（徳村博紀君）

以上で2番議員の質問を終わります。

ここで10分程度休憩をいたします。1時45分から再開いたします。

午後1時32分 休憩

午後1時45分 再開

○議長（徳村博紀君）

休憩前に引き続き会議を開き、一般質問を続けます。

次に、5番池田廣志議員。

○5番（池田廣志君）

どうもこんにちは。いよいよ6月議会も最後の一般質問者になりました。一応最後をまとめる意味で一生懸命頑張って質問をしていきますので、どうぞよろしくお願ひしたいと思います。

今回、私のほうで一般質問で考えておりますのは、大きい項目は2つございまして、1つは第七次総合計画の基本構想、これは「みんなが住みやすく、暮らしやすいまち」の達成ということであつておられますので、この達成状況についてお尋ねをする。それで、2つ目に考えておりますのは、鹿島の市政を力強く推進するための取組について、この2つの項目について質問をいたしたいと思ひます。

まず最初の1番目に考えておりますのは、第七次総合計画は2021年から2025年の5か年計

画として、第六次総合計画の検証をすることに加え、市民の意見を取り入れながら、社会情勢や今後の展望を加味して策定をされております。そこで、目指す都市像として、これは第六次計画に引き続き、「みんなが住みやすく、暮らしやすいまち」とされております。それで、これからも鹿島らしく地域性、地域力を生かして、みんなが安心して暮らせるまちづくりを目指すと定められております。

ただ、この「みんなが住みやすく、暮らしやすいまち」というのは、第六次の策定から続いておりまして、現在で9年が経過をいたしました。そこで、この計画の達成状況について具体的にお尋ねをいたします。

まず最初に、広域幹線道路の整備計画と既設道路の安全施設の管理についてお尋ねをしたいと思います。

第七次総合計画で第3章にうたわれているんですが、都市基盤を整備する施策で、有明海沿岸道路の福富―鹿島間の早期事業着手と、次に、鹿島市から諫早市までの延伸計画の策定、これを国のほうに要望されております。さらに、国道498号の走行性の高い道路整備を、これも県に要望されていますが、国や県の考え方として、交渉した結果についてもお尋ねをいたします。

それと次に、申しましたように、人に優しい、これは既設、現在ある道路の安全の管理面のことでございますけど、非常に気になることが発見されまして、どういうことかといえますと、鹿島市内の一般国道444号、場所は能古見の上のほうなんですけど、そこに1か所、それと一般県道282号、これは奥山～鹿島線、これにも2か所、そういうふうな気になるところがございます。それと、これに隣接する283号の古枝～肥前浜停車場線1か所にも大型の行き先案内板が整備をされているんですけど、この肝腎な案内板が、街路樹等が生い茂った関係で、行き先が確認できないまま放置をされております。それとさらに、先ほど申しました国道444号、これは中木庭ダムの先のほうなんですけど、先ほど申しました案内板から大村市のほうに200メートルほど行った先に50キロのスピード制限の立札もあるんですけど、これも草木で見えません。

それでは、同じ地形である長崎県側がどうかと思って、念のために走って見たんですが、大村市までの間を確認したところでは、長崎県側にはそのような問題箇所はありませんでした。

ただ、これらの国道や県道は、佐賀県の杵藤土木事務所が管理をされております。特に、一般県道の3か所の案内板は祐徳稲荷神社に近く、県外等からの観光客が利用されることが考えられますので、早急な対応をお願いしたいと考えております。

それと次に、2番目に考えておりますのは、地域経済を活性化すると雇用創出のための取組状況についてお尋ねします。

第七次総合計画の産業の振興では、商工業の持続的発展を目指すとして明記され、主要施策で

は、事業者への伴走型個別支援の推進と、地元企業と就職希望者とのマッチングを促進するとされていますが、これは私も先日、会社にお伺いして、えっと思ったんですけど、鹿島市に進出されて20年を過ぎた企業経営者が、今の状況として、鹿島市がこのように少子化が進んできたときには、自分ところの企業の継続というのが非常に厳しい状況にあると考えておられる。

そこで、第七次総合計画の中でこの活性化をうたわれておりますので、この4年間で市内にある操業中の企業に対し、どのような施策を実施し、対応をされたのか。また、今後どのような対策を考えておられるのか、お尋ねをいたします。

それと、3番目に質問いたしますのは、祐徳門前地区のまちづくりの推進を阻む市道の欠損状況についてお尋ねをいたします。

総合計画の基本的な考えとして、しごと・ものづくり、それとひとづくり、次にまちづくりの好循環を目指すとうたわれていますが、観光客誘致の中核である祐徳稲荷神社の参道となっております市道417号の舗装面の傷みがすごのまま放置をされております。特に、正月三日は多くの参拝者が列をなして通行されますので、足元が見えずに転倒される方が多いと、商店経営者の方が大変心配をされております。また、祐徳稲荷神社に近い駐車場が1年ほど前に有料化をされましたことで、現在、下のほうの無料駐車場から参道を歩いてお参りする参拝者の方が増えております。だから、こういう現状も変わってきておりますので、早急な補修工事を実施すべきと思うが、これについてはいかがですか。

現在、工事を実施されておりますのは、公共下水道の大規模事業が実施されておりますが、この公共下水の事業については、かなり神経を使って、そういうことがないように作業をされているようでございます。ただ、かなり昔に造られた道路側溝にU字溝あたりをはめておられるんですけど、この辺りが時間の経過でかなり足が引っかかるような格好になっておりますので、その辺り現場を調べてもらうのと、ちょっと写真でも準備しておりますので、お話しをしたい。だから、正月に向けてお客さんがまた増えてまいりますので、この早急な補修工事についてお考えをお伺いしたいと思います。

それと次に、4番目に考えておりますのは、市役所周辺の環境と景観対策についてお尋ねをいたします。

第七次総合計画の主要施策では、先ほど申しましたように、「みんなですすめるまちづくり」、これを進めて地域共生社会を目指すとうたっておられます。その中核になるところで総合計画を進めておられるんですけど、市役所周辺の環境と景観対策が放置されているというのが気がかりでなりません。

特に目立つのが、市庁舎正面に鍋島屋敷跡地の石碑が建っておりますけど、この石碑がある円形の庭が、今の状況では市役所を訪れた市民の方々の心を和ませる環境にはなっていないのではないかと。そこには椅子あたりも準備はされているんですけど、その椅子に座って

庭を眺めるような状況にはなっておりません。

それと次に、中川公園の中川寄りのところで、この庁舎からも近いところに梅を植えておられます。梅園を造っておられるんですけど、これも管理しないまま放置をされておりまして。だから、現在の状況では春に梅の花を觀賞する対象にはなっておりません。昔から桜を切るばかり、梅を切らぬばかりと言われておりますので、梅というのはなただけ剪定をして新芽を出すような形にしないと、きれいな花も咲きませんので、この辺りの管理もお願いをしたい。

さらに気になったのは、庁舎敷地に隣接する中川公園に公衆便所がございますけど、この生け垣が剪定をされないまま生い茂って、非常に暗くなっておりました。特に、中川公園というのは多くの子供たちが来ておりますのに放置されていたんです。だから、今回質問しようということで打合せをする中で、これは打合せしたら1週間もしないうちに剪定をされていまして、今は見違えるように明るくなっております。

ただ、ここはきれいになったんですけど、気になるのは、それじゃ、子供たちの安全対策として、ちょうどこの公衆便所のように管理が不十分で危険な通学路がないのか、これについてもお尋ねをいたします。

次に、大きい2番目、市政を力強く推進するための取組についてお尋ねをいたします。

まず最初に、県や周辺市町が取り組んでおられる事業や施策、考え方等の情報収集に努めるべきと思いますが、いかがですか。

何でこのような質問をしているかといいますと、議員活動の中で、私の場合、国や県、周辺の市や町に調査に出かけることがよくあります。特に、県庁を訪問した際に複数の課の事業担当者から言われたのが、県内に20の市町がある中で、2つの市町が県庁には見えませんと言われる。それじゃ、どこですかと聞けば、それは鹿島市と基山町ですと、その当時はおっしゃっておられました。だから、このままではちょっと私も厳しいなと思っていますので、今の状況はどうか、これをお尋ねいたします。この件に関しては、鳥飼副市長が一番詳しいかなと思っていますので、よかったらお答えをいただきたいと思います。

それと次に、2番目に考えておりますのは、子供たちの生きる力を伸ばすための施策、どのようにお考えなのか、お尋ねをいたします。

それと、スポーツを振興させるというのは非常に大切な施策と思っておりますので、スポーツをするための施設の整備あたりについてもお尋ねをしたいと考えております。

市内の体育施設を見ますと、野球場と陸上競技場、これは真ん中にサッカーコートも併設はされておりまして。それと、テニスコートやグラウンドゴルフ場、体育館などはありますが、お隣の嬉野市を調べてみたんですけど、みゆき公園というのがちょっと山手のほうにあるんですけど、この公園内のスポーツ施設の充実というのは本当に目をみはるものがございます。それで、現場に行ってみますと、子供たちも一生懸命練習しているのを親も近くでずっと見守っておられます。そういうことで、このみゆき公園のスポーツの盛り上がりというの

はすごいなと思いつつ、また、羨ましいなと思つて眺めてきたところです。

それと次に、市内の体育施設で非常に気になったのは、鹿島市でいろんな練習等をされているんですけど、夏の期間の練習環境というのが鹿島は非常に厳しいと。冷房施設等も一切ないものですから、指導されている方が鹿島では練習できませんよとまでおっしゃっております。それじゃ、どうしているんですかと聞いたときに、これも嬉野市の体育館のほうがかちゃんと冷暖房を完備しておりますので、夏は特に嬉野市の体育館のほうに行っておりますとはっきりおっしゃいますので、そこは本当に今のままでいいのか。それと、鹿島市内の体育館というのは災害時には避難場所にも指定されますので、全部の体育館の環境整備に努めるべきと思いますが、これはいかがでしょうか。

それと、前回の議会でも質問したんですけど、鹿島市内には専用のサッカー場、これはフットサルコートも含めてですけど、そういうような専用施設がありませんので、これは先ほどほかの議員もおっしゃっていたんですけど、鹿島市出身で全日本代表選手で国際大会でも活躍している平河悠さんの出身地でもありますので、鹿島市にこういうふうな整備を考えていただけないものなのか、お尋ねをしたいと思います。

それと3番目に、今回どうしても気になったのが、これも市が取り組んでおられるイベント等の情報発信というのが確実にできているかなと思つて、何人かと話をしていました。そこで、私もそうかと思つたのは、先日、鹿島市にバスケットボールチーム、佐賀バルーンズの社長と選手2人が見えております。この情報がほとんどの市民の方に伝わっていなかった事実がございます。

そこで、市内でも佐賀バルーンズファンとして、いろんなお話をされている方が大変残念がっておられましたので、このような情報の発信も確実にしてほしいと思つておりますので、これについての対応、お考えをお伺いしたいと思います。

以上、総括質問の後、また個別で質問をいたしますので、御答弁よろしくお願ひいたします。

○議長（徳村博紀君）

執行部の答弁を求めます。鳥飼副市長。

○副市長（鳥飼広敬君）

私のほうから池田議員の質問の市政を力強く推進するための取組についてのうち、県や他市町の取組状況等の情報収集を行うという中で、議員のほうから、県内20市町のうちに鹿島と基山だけが県庁に見えませんか。同じことを当時、複数の職員から言われた、今はどうですかということについて答弁申し上げたいと思つています。

当然、今、池田議員おっしゃるように、いろんな事業を進めていく上で、いろんな情報収集をしていくことは必要なことだと認識しております。といいながらも、池田議員、先ほどおっしゃったことは、当時ということをおっしゃっていました。かなり以前の話じゃないか

など私の感覚としては考えております。今現在は全然そういった状況ではなく、今、知事と松尾市長の信頼関係の下に、連携というのは非常に取れている状況だと考えております。とはいえ、県と市町というのは基本的には対等な関係でありまして、県庁に行くというのは、結構ほかのところはお願いしに行ったりとか、要望に行くということが多いいんじゃないかなと思います。何でもお願いをしに行けばいいというものではないかと思っておりますし、市職員としての矜持を持って、いろんなことに臨む必要があると考えております。

今の鹿島市の県との連携の状況について答弁しますと、今の状況は多分ほかの市町も羨むような状況ではないかなと考えております。先ほどこの議会でも答弁、質問がっておりますけど、肥前鹿島駅の周辺整備につきましては、鹿島市と県が連携して事業をやっておりますので、緊密な連携をしておりますし、KATAラボという県の事業をするような機関を市に設置するというのも異例なことだと思います。

あとは、例えば、母ヶ浦川の下流域の協議会というのがあります。これはもともと農林と土木と、それぞれ農林事務所、土木事務所がお互いのどっちがどうかという管轄の問題とかでなかなか事業が進まないような事業がありましたけど、ここにつきましては県のほうが主導していただいて、土木事務所、農林事務所と地元の区長さんとかが入って、この流域をどうしていくかという連絡協議会を立ち上げて一緒にやっております。

また、議員の質問にもあったと思いますけど、土木事務所との連携というのがやっぱりいろんな面で大事なことだと思います。土木事務所との連携につきましては、年に1回、杵藤土木事務所の事業説明会をやっておりますけど、この杵藤土木の事業説明会というのは管内では鹿島市だけしかやっていない事業説明会になっております。この間、嬉野市の副市長とも話したんですけど、鹿島市だけはそんなことをやって、嬉野もやりたいんだけど、鹿島市だけいいですねみたいなことをおっしゃってました。ここは鹿島市と杵藤土木事務所と一緒にあって、いろんな事業の連携をしながらやっていっているような状況になります。

また、県のほうも基本的な方針として、市町に寄り添いながら事業を進めていくという方針で事業を進めておりますので、県の職員もそれぞれの市町に出向いていろいろな調整をよく行っている、意見交換しているような状況であります。

これからも県や国としっかりと連携しながら、鹿島市にとって何をすべきかということをしかりと考えながら様々な施策を進めていきたいと考えております。

以上です。

○議長（徳村博紀君）

手島建設住宅課参事。

○建設住宅課参事（手島秀康君）

私からは広域幹線道路についてお答えいたします。

まず、有明海沿岸道路については、現在、国、県において、諸富インターチェンジから嘉

瀬南インターチェンジまでの区間及び福富インターチェンジから鹿島方面の区間について事業を進めていただいているところです。

このうち、福富インターチェンジから鹿島方面については、令和4年度に鹿島側から事業に着手していただき、これまで調査設計を進めてきた鹿島側において、具体的なルートなどを今年の夏頃までに地元へ示し、令和7年度中には用地買収に着手できるように取り組むと佐賀県から聞いているところです。

また、鹿島から太良、諫早方面への計画につきましては、令和3年度に佐賀県、長崎県の両県において新広域道路交通計画が策定されており、その中で構想路線として位置づけられております。

なお、鹿島から諫早間につきましては、有明海沿岸道路西部地区建設促進期成会において、諫早市、太良町と一体となり、早期事業着手に向けた要望活動などに取り組んでいるところです。また、要望活動のほかに、国、県及び白石町にもオブザーバーとして参加していただき、意見交換会を実施し、地域の課題や有明海沿岸道路に求める役割など、国や県からも助言をいただきながら議論しているところです。

鹿島市としましては、引き続き関係機関と協力、連携しながら意見交換会などを継続していくとともに、国や県、国会議員に対し、整備の必要性や地元の熱意など、要望していくことで、構想路線から次のステップへの格上げにつなげていきたいと考えております。

次に、国道498号鹿島－武雄間については、具体的な整備ルートを検討するための範囲、約1キロ幅のルート帯を、昨年、区長会や「広報かしま」などで市民の皆様へお知らせし、様々な御意見をいただいたところです。昨年11月には国道498号整備促進期成会で佐賀県への要望活動を実施し、約1キロ幅のルート帯からさらに絞ったルート帯の提示に向け、次の段階へ検討を進めていただけるよう要望してきたところです。

有明海沿岸道路や国道498号鹿島－武雄間の整備は、時間短縮効果だけではなく、産業や観光の振興、交通渋滞の緩和、事故の減少、そして、災害時の避難や救援物資の輸送など、様々な効果が期待される道路です。鹿島市としましては、これまでもあらゆる機会を捉えて国や県、国会議員に対し早期整備、早期事業着手の必要性を訴えてきましたが、引き続き粘り強く地元の声や熱意などをしっかり届けてまいります。

以上です。

○議長（徳村博紀君）

江島建設住宅課長。

○建設住宅課長（江島裕臣君）

私のほうからは既設道路の安全施設等の管理状況について申し上げます。

国道444号と県道奥山～鹿島線につきましては、佐賀県の杵藤土木事務所の管理となっております。日常の維持管理につきましても県のほうで対応されているところであります。

私ども市としましては、こういう国県道に関する連絡がありましたら、速やかにその情報を県へおつなぎして対応をお願いしているというところでございます。

今回お尋ねの国道444号と県道奥山～鹿島線のかぶり木につきましても、市と共に、県もその状況は既に把握をされております。現地を調査しました結果、国道444号に関しましては民地からのかぶり木でありましたので、まずはその民地所有者の方に一報を入れまして、対応をお願いしているという状況であります。

奥山～鹿島線の街路樹の件でございますけれども、これにつきましては先日、県のほうで剪定業務を業者の方に発注されておまして、業者のほうも決定をいたしております。現在は着工前の測量中ということで、現場に入る時期はまだ今の段階では分かりませんが、いずれにしても、近いうちに実施される見込みであるというふうに伺っております。

市道もそうですけれども、国県道に関しましても、特にこの時期は、本日、議員御指摘の箇所だけでなく、多くの箇所においてかぶり木等に関する情報が寄せられておまして、その対応には大変苦慮しているところではございますけれども、現場ごとの状況を精査しまして、県とも連携しながら順次対応していきたいと考えているところでございます。

○議長（徳村博紀君）

中尾商工観光課長。

○商工観光課長（中尾美佐子君）

私のほうからは地域経済の活性化と雇用創出のための取組状況について説明させていただきます。

まず、市内企業への支援についてお答えいたします。

鹿島市にあります制度といたしましては、鹿島市中小企業融資金の貸付けを受けた場合の信用保証料の全額補助、従業員の資格取得や技術研修に必要な費用の助成のほか、設備投資に伴い増加した固定資産税への補助などを行っております。このほか、市内企業が新たに事業所を増設するなど、大規模な設備投資があった場合、設備費等の補助もございます。

また、事業者が抱える様々な経営課題をサポートするかしまビジネスサポートセンターを鹿島商工会議所内に設置し、経営改善につながるサポートをしております。かしまビジネスサポートセンターは開設から10年を迎え、開設当初からの相談件数は累計7,112件に上ります。

次に、雇用の創出についてですけれども、鹿島の企業を知ってもらうための取組といたしまして、鹿島市に多くの企業があることを知っていただき、地元への就職につなげることを目的として、平成30年度から鹿島市企業説明会を市と商工会議所共同で開催しております。市内と近隣市町の高校1・2年生とその保護者や大学生、一般求職者を参加対象としており、昨年度は令和7年2月4日に開催、高校生56人、保護者、教員14人、合計70人に参加していただきました。

このほか、鹿島の将来を担う子供たちとその保護者がふるさとのものづくりや仕事の現場を理解し、理解を深めてもらうことで将来的な地元就労、定住促進につなげることを目的に、かしま仕事めぐりツアーを平成29年から鹿島市産業連携活性化協議会が開催しております。

以上でございます。

○議長（徳村博紀君）

山口環境下水道課長。

○環境下水道課長（山口秀樹君）

私のほうからは祐徳門前地区を通る市道417号参道線の舗装についてお答えいたします。

池田議員から御説明があったとおり、祐徳門前地区については、現在、下水道管渠工事を推進しております。工事の際は通行規制等で地元の方々に御負担をおかけし申し訳ございませんが、安全を第一に考えて施工を行っております。

通常、下水道管渠工事においては、管渠の埋設時に通行に支障を来さないよう仮舗装を行います。原形復旧させる本舗装は、掘り返した部分の地盤が固まったことを確認してから行うため、工事完了後、おおむね1年から2年後に舗装施工となります。

現在、祐徳門前地区の下水道管渠工事は令和8年度の完了を目指しております。舗装に向けて各計画との調整を図り、また、仮舗装時に段差等の不具合の発見があれば、地元区長さんにもお話しして、応急措置により安全性の確保に努めてまいります。

以上です。

○議長（徳村博紀君）

嶋江総務課長。

○総務課長（嶋江克彰君）

私のほうからは市役所周辺の環境と景観対策について答弁いたします。

市民課前のサークル状の敷地は、市民の皆様への憩いの場として親しまれており、敷地内には現在の庁舎の建設を記念して昭和55年に建立された鹿島藩調練場鍋島屋敷跡の石碑がございます。この場所の除草については、業者と年3回の委託契約を締結しているほか、必要に応じて職員による対応も行っております。季節によっては草の生育が早まる時期もあることから、より安定した景観の維持に向けて対応の工夫を重ねているところでございます。今後はこうした課題の解消に向けて、市としてこれまで以上に積極的に維持管理に取り組み、常に良好な環境を保てるよう努めてまいります。

一方、梅林についてですが、草払いについては植栽管理の中で対応しているところですが、枝の剪定等の管理は別途予算をかけて実施する必要がございます。都市公園管理に当たっては、まずは利用者の皆様方の安全・安心を確保することが大切なことと考えております。梅の花の観賞ができるような景観保全についても必要ではありますが、都市公園管理全体の中で、まずは危険度や緊急性を検討した上で、優先度や実施の可否を判断してまいりた

いと考えております。

トイレ周辺の低木につきましては、先月まで御指摘のように随分伸びておりまして、かなり高くなっておりました。そこで、見通しをよくするために、植栽管理業務の中で強剪定をやっていただくようお願いしていたため、6月初旬にはなりましたが、現在は見通しを確保できることができ、安心してお使いいただけるようになっております。

以上でございます。

○議長（徳村博紀君）

江頭教育次長。

○教育次長（江頭憲和君）

私のほうからは通学路の安全点検についてお答えをいたします。

鹿島市では、関係機関、関係団体の御協力を得ながら、通学路安全推進連絡協議会というものを組織しております。この協議会では、学校から通学路の点検状況等を出していただきまして、それを基に対策に当たるための担当の機関とか担当の部署の割り振りや対策方法、それから対策時期などについて協議を行いまして、現地調査等を行うなど、危険度、必要性、優先度の確認を行いながら通学路の安全性の確保に努めているところです。

協議会の構成としましては、土木事務所、それから鹿島警察署、区長会、校長会、PTA、交通安全協会、交通安全指導員会などの関係機関で構成がされておまして、今後も連携を図りながら、通学路の危険箇所や要注意箇所についての安全対策を進めたいというふうに考えております。

○議長（徳村博紀君）

山口生涯学習課長。

○生涯学習課長（山口徹也君）

私のほうからは子供たちの生きる力を伸ばすための施策と、そのスポーツ等の振興策ということでお答えをしたいと思います。

まず、生きる力を伸ばすための施策ということで、スポーツに関連してということになるかと思っております。

昨日も少しお話をさせていただいておりますが、スポーツの力を鹿島の元気につなげて、「する」「観る」「支える」、スポーツに関わる全ての方がより豊かな生活を送ることができるよう、今後もスポーツと触れ合う場の提供に取り組んでいくということで所信を表明されております。

鹿島市における生きる力を伸ばす施策ということでは、子供たちへの育成支援ということになるかと思っておりますので、1つは、スポーツ選手を間近に見てもらおう体験ということでのスポーツ合宿に来た大学の選手たちによる小・中学校の訪問事業、これはメジャーなスポーツイベントに出場するアスリートと触れ合える場として、子供たちにとって貴重な機会

になるものと考えております。

また、スポーツを頑張っている子供たちへの支援ということでの鹿島市スポーツ振興基金補助金につきましても、選手の環境を整え、スポーツ振興を支える観点から、補助上限額を4月から増額しております。

こういった形での、いわゆるソフト事業の取組といった部分については、より充実した取組ができないかどうかということも含めて、情報の収集や県等への相談をしながら、よりよい取組になるようにしていきたいということで考えております。

次に、社会体育施設、体育館への空調設備の設置ということですが、熱中症の予防という面も含めてお答えをさせていただきたいと思っております。

最近の夏の厳しい暑さの中では、確かに空調設備のない体育館での練習が熱中症のリスクを高めるということは十分に理解をしております。そのため、まず予防のための対策として、各体育館には暑さ指数計を設置しております。気温や湿度が危険な水準に達した際には、直ちに運動を中止するよう呼びかけを行っております。

また、鹿島市では市内事業者さんから寄附もいただいておりますが、5月末に市内の公共施設に給水スポットを設置しております。利用者の方々につきましては、コップや水筒、いわゆるマイボトルなどを持ってきていただければ、無料で冷水を補給できるようになっております。地区体育館など、社会体育施設にも設置をされておりますので、熱中症予防に活用させていただきたいと思っております。

それらに加えて、地区の体育館には、それぞれ会議室など、エアコンのついた部屋が、いわゆるアリーナの近くにはございます。暑い時期には体育館を利用する際に体を冷やし、休憩を取るため、これらの部屋を同時に利用できるように、管理上の調整を現在行っているところです。6月から9月の間、今のところは体育館の予約時にその情報を伝えてもらうように公民館などには依頼をしているところです。

以上のような対策を行ってはおりますけれども、基本的には利用される皆さんが自身の体調に合わせて十分に休憩を取りつつ、小まめな水分補給を心がけて運動をされることが大事になってきます。特に、子供のスポーツ活動においては指導者や保護者の適切な指導が不可欠だと思いますので、その点はよろしくお願いをしたいと思っております。

また、災害避難所としての利用の面からも整備をとの御指摘につきましては、暑い時期の避難の際には、熱中症などの予防の観点からも、公民館の会議室や学校の教室など、エアコンのある施設が積極的に利用をされております。暑さ対策として行き届いていないところがあるということは、昨日、市長のほうからも少し触れられましたけれども、スポーツの振興、避難所としての利用などの際に、議員のおっしゃる空調設備の必要性については重々承知をしておるところですが、そういった設備を体育館に設置する場合、空調機器のみならず、建物自体の断熱工事等も必要となりますので、費用が1億数千万円に上るという試算もござい

ます。大きな負担を伴いますので、ちょっとここは昨日の答弁とも重複しますが、市内の公共施設全体の状況を勘案しながら、財源の検討を含めて、事業の実施が可能なタイミングを見計らっていく必要があると考えております。

それから、サッカー場などのスポーツ施設をとということですけれども、専用の施設がないこと、平河選手の活躍などを含めたところで整備の提案ということではいただいているかと思えます。確かに公共での専用施設ということではありませんけれども、一方で、サッカー場やフットサルコートなどが不足をしていたり、整備要望が課題として上がってきてはいない状況でございます。先ほど空調設備のところでも申し上げましたが、新たな施設の整備は多額の財政負担を伴います。これは箱物ではないサッカー場やフットサルコートなどでも、整備費に加えて、維持管理経費など、継続的な財政負担となります。そのため、ここは繰り返すにはなりませんけれども、現在取り組んでいる公共施設の維持管理と長寿命化を基本として、市内の公共施設全体を見ながら、まずは事業の必要性を検討し、その結果、必要となれば、財源や実施可能なタイミングというところを今度は見計らっていく必要があるということで考えております。

以上です。

○議長（徳村博紀君）

田中広報企画課長。

○広報企画課長（田中美穂君）

私のほうからは市が取り組んでいる情報の発信力の強化策についてということでお答えしたいと思います。

先ほど池田議員からもありました佐賀ブルーナーズについては、昨年2月に本市と連携協定を締結し、これまでSAKURASでのパブリックビューイングや特急かささぎで行く観戦ツアーなど、地元佐賀県のプロバスケットボールチームを市民の皆様と一緒に応援してまいりました。先月22日には田島代表取締役社長ほか2名の選手にお越しいただきまして、シーズン終了報告と来シーズンに向けての抱負をお聞きし、お話しされた内容は当日のお写真とともにSNSで報告をしたところでございます。

今回は報告という形での発信といたしましたが、本市でもバスケットボールをはじめ、スポーツ人気が高まっております。熱心なファンの方もたくさんいらっしゃいますので、チーム関係者に事前告知の許可も含めて、情報の発信時期や選手の安全面への配慮など、御相談しながら、市民の皆様の期待と応援の声が届けられるよう、可能な限り情報提供をしていきたいと思っております。

また、市からの情報発信手段については、主に市報、ホームページ、SNS、そのほかケーブルテレビ、防災行政無線、記者会見などがあります。発信までの期間や内容、それから、発信したい対象によって使い分けをしているところでございます。情報発信の手段が多

様化する中で、市からの情報以外にも、市民の皆様が接する情報というのは膨大な量になっていると思われます。このため、確実に市からの情報が届くよう、広報企画課では情報発信強化の取組として、市民が必要とする情報を正確に、また効果的に伝達するため、広報活動全般の指針となるかしま広報戦略を今年3月に策定し、庁内での職員研修と併せ、全庁的な広報力の向上に取り組んでいるところです。

まだまだ改善すべき点は多数あると思いますが、広報への御意見も参考にしながら、今後も情報発信のタイミングや方法などを見直していきたいと考えております。

○議長（徳村博紀君）

5番池田廣志議員。

○5番（池田廣志君）

それぞれに御答弁いただきまして、ありがとうございます。

一応今の答弁を聞く中で、どうしても再度お尋ねしたいなと思っておりますのは、まず有明海沿岸道路、これは福富―鹿島間が早期に事業着手されるように国等に要望された結果、今、百貫橋の先のほうに、竜王のほうにあるんですけど、大きい看板がございます。この看板に描かれている絵のとおり国道207号に接続を考えておられるのか、ちょっと確認だけさせていただきたいと思ひます。

○議長（徳村博紀君）

手島建設住宅課参事。

○建設住宅課参事（手島秀康君）

お答えします。

先ほど議員おっしゃられた国道207号に設置されている福富鹿島道路鹿島区間のイメージの看板におきましては、有明海沿岸道路が国道207号に接続する表現となっておりますが、鹿島市としましても接続方法など、詳細については県より示されていないため、現時点では承知しておりません。

今後、県において調査や設計が進捗していく中で、詳細な道路の形や接続方法などが示されていくものだと考えております。

以上です。

○議長（徳村博紀君）

5番池田廣志議員。

○5番（池田廣志君）

私も竜王のところに掲げておられる看板が本当にあれでいいのかなという思いで眺めていたんです。何でもかといいますと、今回造る有明海沿岸道路というのは自動車専用道路ですよ。これで走る車のスピードも違うし、それとバイパスは一般道ですから、当然60キロという形のいろんな制限の仕方も違うのと、もう一つは、有明海沿岸道路というのは将来は4車

線化ですよ。現在、福富まで来ている道路はほとんど2車線で整備をされているんですけど、行く行くは有明海沿岸道路というのは4車線で整備計画がなされていると思います。だから、大川とか、向こうのほうの福富とかの現地を見てみると、下の橋台だけは4車線分造ってあるんですが、実際、道路自体は2車線、半分しか造っていません。だから、将来はやっぱり鹿島も有明海沿岸道路というのは4車線来るということも頭に入れとかにやいかんなど考えているところなんです。ただ、あの絵のとおりしたら大変だな。鹿島にとっては、ちょうど今の福富のところまで有明海沿岸道路に乗るためにはああいう形であらうなっているんですけど、これは鹿島とはちょっと状況が違うなと思って見ているところです。だから、その辺りを含めて、鹿島にとって10年後、20年後を考えたときに、これはしっかりしとかんといかんという思いでおります。

それともう一つは、鹿島から今度は諫早のことを考えたときには、有明海沿岸道路の今まで造ってこられた地形と鹿島から諫早までの地形というのは全然また違いますので、その辺りを含めて、しっかり鹿島市のほうでも考えとかんと、今の国道207号沿線で商売をされている方が非常に心配されているんです。その専用道路になれば、お客さんが来んごとなつとやなかろうとか、そんな心配もされていますので、ぜひ今後の鹿島市のことも含めて御検討をいただいて、よろしくお願ひしたいと思います。

それでは、先ほどからずっと質問しながら、ちょっと写真を今日準備しておりましたので、御説明をしたいと思います。

[映像モニターにより質問]

これは先ほど説明をしておりましたが、国道444号の中木庭ダムを過ぎて、この先には多良岳横断林道と交差するところですね。ここにこういうふうに周りに生えている木がずっと茂ってきて、ほとんど見えない状況になっているもので、この対応はそういうことで地主さんのほうにお願いをしていると答弁がございました。

それと、この先に行きますと、こういうふうに50キロ制限の立札があるんですけど、これもやっぱり車を運転しながらはちょっと確認できない状況ですね。

それと次が、これは県道にある案内板が、やっぱりこういうところで行き先がよく確認できないような状況になっています。

それで、これは祐徳院から浜のほうに抜ける県道なんですけど、ちょうど先のほうはセブンイレブンになっているんですけど、こどもやっぱりどうしても案内板が見えない状況。

それと、これは祐徳稲荷神社の参道です。ここがちょうど真ん中ほどに石でできた鳥居があるんですけど、大きい鳥居です。これの周辺を見ても、歩く際に足元をよく見て歩かんと転げるような、つまづくような状況になっています。ここだけじゃございません。何か所もございます。

これはもう少し先のほうに行って、三都屋さんでお店をされているんですけど、左のほう

に曲がっていく市道なんですけど、この市道のところでも道路を横断する水路の、ちょうど今、かなり時間もたって、これも足が引っかかるような格好になっていますので、その辺りの安全対策を、これは仮舗装でいいと思いますよ。本格的な舗装じゃなくていいから、この凸凹をなくすことに神経を使っただけならなと思っております。

それと、これが先ほど申しました市役所前ですね。一応こういうことで、まず写真だけ御説明をいたしますけど、これが梅林です。梅林がこの状態ではちょっと梅の花もあんまり咲いていないんじゃないかなと思ってますので、その辺りの管理もお願いしたいということと、これが公園のところの公衆便所の状況です。これは剪定される前です。それで、剪定した後どうなったかといいますと、こういうふうになんかすきとよく見えるような格好で、これが皆さん方が朝晩、車を止めるために駐車場のところに歩かれる状況です。だから、ここは前のまま、剪定しないままのときには、中で何しているか分からんように茂ってましたので、ただ、ここも職員がいつも歩いていっているところで、こういうのを職員の方からの指摘とかないのかなと思っておりました。

一応こういうことで、みんな分かりやすいようにと写真を準備はしましたので、ぜひよろしくお願ひしたいと思います。

それじゃ、次の再質問に入っていきたいと思ひます。

それで1つは、鹿島市内の国道、県道の維持管理のところ、これは全部、管理は杵藤土木事務所がされていると私も分かっているんですけど、こういうふうな問題箇所を早め早めに解決できるように、鹿島市の道路管理をされている方というのは、何か通報制度を正式にできないものなのかなと考へたところ、これは当然、道路を市民の人も通られるし、職員も通勤とか、そういうことで生活をしながら通られる道路でございますので、この辺りの問題箇所を発見したときに通報する制度というのをつくっておけば、早め早めに情報が入ってくるかなと思っておりますが、これはいかがでしょうか。

○議長（徳村博紀君）

江島建設住宅課長。

○建設住宅課長（江島裕臣君）

お答えをいたします。

通報制度ということでございますけれども、国県道も含めて、その所管、県の所管、市の所管にかかわらず、道路破損箇所等に関します市民の方、また、地元区長さん等々からの報告というのは日常的に市のほうで受付をしております。市のほうで現地を確認しまして、その必要に応じて土木事務所でありますとか、そこから委託を受けている業者さんのほうに情報をつないでおります。土木事務所とはお互いに緊急連絡先というのも交換をしております。夜間、休日問わず連絡を取り合うという体制が現在構築はされております。

また、一般の市民の方からの通報手段ということですが、去年の1月からスタート

をしましたけれども、鹿島市の公式LINE、てのひら市役所ですね。これは現在8,400人の方に登録をさせていただいておりますけれども、これにも通報機能というのがございまして、LINEを開きますと通報というタブが出てきます。これを押していただきますと、ずっとガイダンスが始まります。道路のことですか、河川のことですか、動物の死骸ですかと。このガイダンスに従って、ずっと押していきます。例えば、道路だったら道路を押したら、路面のことですか、側溝のことですかと、ずっとガイダンスが出てきます。それに沿ってずっと押していったら通報できますし、これはその現場の写真なんかも簡単に添付できるシステムになっております。これを御利用いただければ、わざわざ市役所のほうに来てもらったり電話してもらったりもないですし、また、これは土曜でも日曜でも夜でも通報できるシステムとなっておりますので、今後こうした機能を、さらなる登録者を増やしていきたいと思っておりますし、利用拡大にも努めていきたいというふうに考えております。

○議長（徳村博紀君）

5番池田廣志議員。

○5番（池田廣志君）

答弁ありがとうございます。ただ、答弁の内容を聞いておまして、当然そういうふうな答弁をされるだろうと思っていた。ただ、今回、4か所のいろんな交通安全施設の問題点を写真でお示したんですけど、この件については、それじゃ、そういうふうな通報制度で上がってはきていなかったんですか。今回初めて私が言ったことで分かったのかどうか。だから、そういうふうな多くの目を見て、やっぱり市民の安心・安全を考えたときには、そういう制度というのを確実に運行できるような制度にしてほしいと思いますが、いかがでしょうか。

○議長（徳村博紀君）

江島建設住宅課長。

○建設住宅課長（江島裕臣君）

お答えをいたします。

御指摘の箇所については、市のほうも県のほうも把握というのはしておりました。日頃からいつも申しておりますけれども、地元の区長さんをはじめ、道路関係でいいますと、年間約100件ぐらいの御要望といたしますか、こういうところを修繕してほしいという箇所を私もいただいております。これは全部はできませんので、優先順位をつけながら、一つ一つ解決をしていっているという状況でございます。

また、先ほど紹介しましたてのひら市役所ですね。こちらからの通報というのもこれまでいただいております、なかなか私たちがパトロールしている中でも見つけ切れなかったような、ちょっとした、ポットホールと言いますけど、路面に穴が空いていたとか、そういうところをすぐ写真を撮って送っていただいて対応しているという実績もございまして、よ

り今後も利用拡大に努めてまいりたいというふうに考えております。

○議長（徳村博紀君）

5番池田廣志議員。

○5番（池田廣志君）

ありがとうございます。やっぱり鹿島市民の方が鹿島市内で生活を送る上で、本当に安心・安全な環境というのは最大限の関心を払いながら図っていかにかんやいかんと思っていますので、どうぞ今後ともよろしくお願いをしたいと思います。

それで1つ、次にお尋ねしたいと思っているのが、商工観光課のほうではいろんな事業者への取組をされていると御説明はあったんですけど、1つ確認したいなと思っていたのは、第七次総合計画の中にうたってある文言なんですけど、事業者への伴走型個別支援を推進すると書かれておりますけど、これは具体的にどういう取組なのか、よかったら教えてください。

○議長（徳村博紀君）

中尾商工観光課長。

○商工観光課長（中尾美佐子君）

私からは企業への伴走型個別支援について説明させていただきます。

こちらについては、先ほど少し御説明させていただきました、商工会議所にありますかしまビジネスサポートセンターのことでございます。開設から10年を迎え、7,000件を超える相談がっております。令和6年度につきましては、相談件数865件、実企業数でいきますと183社が御相談いただいております。

また、相談内容についてですけれども、あらゆる相談に乗ることになっておりますので、様々な相談がございます。特に多いのが補助金ですとか、最近はSNSの活用といった御相談が多くございます。また、売上げ・販路拡大、そのほか経営分析など、それぞれの事業者様が自分のところの会社について非常に熱心に考えていらっしゃるということを、私たちが毎月報告会を開いておりますので、感じているところでございます。

また、令和5年度からは女性優先の相談日というのも設置しております。女性の相談については、もともとこのサポートセンターそのものは割と多いほうだったんですけども、こういうふうにより女性の方が相談しやすい環境を整えておりますので、そこでもまた相談が増えているのではないかと考えております。

以上でございます。

○議長（徳村博紀君）

5番池田廣志議員。

○5番（池田廣志君）

それじゃ、本当に地元企業というのは大切なものでございますので、ぜひこの辺りの対応をよろしくお願いをしたいと思います。

それと、先ほどの答弁の中では、いろんな企業あたりへ地元の若者が就職するようというところで、いろんな取組をされているようです。親御さんを含めてされているようですが、私も前回、前々回やったかな、質問したのは、佐賀県庁の1階の県民ホールのところ、県内の企業がやっておられる事業が分かるような、実際、商品を表示するようなコーナーもつくられていますので、その辺りは鹿島市にはできませんかと話をしたんですが、そのときにはやっぱり1階の市庁舎のロビーあたりの面積等は非常に厳しいので、その辺りはできませんという話なんですけど、よく周りを見ると、SAKURASにはそういうスペースがありますよね。ただ、そこが本当に市民の方の目に触れるようなことになっているのかどうかというのは非常に疑問に思うんですけど、そういうことで市民の方の目に触れるような、市内の企業が行っておられる製品あたりを見れるようなコーナーというのは案外大事なんじゃないかなと思っているんですけど、これは市長がよろしいですかね、答弁をお願いしますか。

○議長（徳村博紀君）

松尾市長。

○市長（松尾勝利君）

市内には、世界に名立たる企業等、優秀な企業がたくさんあります。今、県庁の話をされて、私もあそこに行くたびに1階をずっと見て回るんですね。県内のいろんな企業の紹介をされております。やっぱり興味があって、すごいなという思いの感想を受けます。

じゃ、今、鹿島市でそういうところはどうかということですけど、ずっと常設じゃなくて、例えば、時期的に、こういうときにちょっと市内の企業の皆さんのそういうものづくりの紹介をするというようなコーナーをつくるというのは可能ではないかというふうに思っておりますので、その点も含めて検討させていただきたいと思います。

○議長（徳村博紀君）

5番池田廣志議員。

○5番（池田廣志君）

市長の思いをいただきまして、ありがとうございます。私も鹿島市内の企業でやっておられるところを機会あるごとになるだけ訪問をして見ているんですけど、まず1つ、私もえっと思ったのは、鹿島市内の企業で、これはアメリカにある宇宙開発をするところが鹿島に技術相談に来る企業もあるんですね。それとか、先日私が行ったところでは、トヨタ自動車を作っている最高級の車のシートを作っておられる企業もあるんです。そういうのをほとんどの市民の方は知っておられないと思います。だから、その辺りの情報を流してやるということは、その企業にとっても大切ですけど、鹿島市を元気にしていくためにもそういう情報の発信というのは大切なことだと思っていますので、ぜひ今後ともいろんな御検討をいただいて、鹿島市を本当に一歩でも二歩でも前に進めるような取組をお願いしたいと思います。私もそれなりに一生懸命勉強しながら頑張っていきますので、今日の質問への答弁ありがと

うございました。

これで終わります。

○議長（徳村博紀君）

以上で5番議員の質問を終わります。

本日の日程はこれにて終了いたします。

次の会議は25日午前10時から開き、議案審議を行います。

本日はこれにて散会いたします。お疲れさまでした。

午後2時59分 散会